

第 25 回 江東区政世論調査



スポーツと人情が熱いまち

江東区

江東区

令和 3 年（2021 年）12 月

1. 定住性
2. 防災対策
3. ごみ・リサイクル
4. 交通
5. 選挙
6. 区議会
7. 図書館
8. 江東区ブランディング戦略
9. 緑化推進
10. 公園
11. 環境美化
12. 児童虐待
13. 広報
14. I C T
15. 男女共同参画
16. コロナ禍による生活の変化
17. 施策への要望

新しい未来に向けて前進を

江東区政世論調査は、昭和48年から隔年で実施しており、今回で25回目となります。

本区の人口は、平成27年6月に50万人に達し、現在は52万人を超えています。区ではこのような急激な人口増加や複雑化・多様化する課題に対応するため、令和2年3月に「江東区長期計画」を策定し、未来を見据えた着実な区政運営の推進に取り組んでいるところです。

本区では「安全・安心と支えあいを実感できる都市・江東」の実現に向けて、積極的な施策展開を図っておりますが、区の重要課題である「地下鉄8号線の延伸」のほか、「行政のデジタル化への対応」、「オリンピック・パラリンピックレガシーの継承」など、本区を取り巻く諸課題は多岐にわたっています。とりわけ、新型コロナウイルス感染症の拡大は、これまでの生活様式の根本を揺るがしており、区民の生活や社会経済活動に大きな影響を与えています。

そのような中でも、これまでの世論調査で継続調査している区民の定住意向は、前回は上回る90.7%となりました。この結果はこれまでの取り組みが評価された結果でもあると認識しており、大変喜ばしく思っております。今後も区民の皆様へ、より愛着を持って長く住み続けたいと思える江東区を目指し、邁進してまいります。

今回の調査では、社会情勢の変化などを踏まえ、「コロナ禍における新たな生活様式」や、「利用したい区の電子申請」を新しく調査項目として設けました。継続して行っている調査項目の結果と合わせ、今後の区政運営や施策立案の際の貴重な基礎資料として、活用してまいります。

最後に、本調査の実施にあたり、ご協力いただきました区民の皆様へ心から御礼を申し上げます。

令和3年12月

江東区長 山崎 孝明

第1章 調査の概要	1
1 調査目的	3
2 調査内容	3
3 調査設計	4
4 回収結果	6
5 標本誤差	7
6 報告書の見方	8
7 調査設計及び回収結果の履歴一覧	10
第2章 調査回答者の属性	11
1 地区	13
2 性別	13
3 年齢	13
4 性別×年齢	14
5 国籍	14
6 職業	15
7 同居人の有無	15
8 住居形態	16
第3章 調査結果の概要	17
1 定住性	19
2 防災対策	21
3 ごみ・リサイクル	25
4 交通	26
5 選挙	29
6 区議会	32
7 図書館	33
8 江東区ブランディング戦略	34
9 緑化推進	36
10 公園	39
11 環境美化	41
12 児童虐待	42
13 広報	44
14 I C T	49
15 男女共同参画	52
16 コロナ禍による生活の変化	53
17 施策への要望	54

目次

第4章 調査結果の分析	55
1 定住性	57
(1) 居住年数	59
(2) 定住・転出意向	62
(3) 定住意向理由	65
(4) 転出意向理由	68
2 防災対策	69
(1) 震災時の不安	71
(2) 震災時の備え	76
(3) 家庭内で準備している防災用品・用具	80
(4) 防災対策への要望	83
3 ごみ・リサイクル	89
(1) ごみを減らす活動の取り組み状況	91
(2) ごみを減らすために行っている取り組み	94
4 交通	97
(1) 区内の公共交通機関で不便や不満を感じること	99
(2) 南北を結ぶ公共交通に求めるもの	102
(3) 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え	105
(4) 自転車利用について区が取り組むべき施策	108
5 選挙	111
(1) 東京都議会議員選挙の投票の有無	113
(2) 候補者を選ぶのに役立ったと思うもの	117
(3) 投票しなかった理由	119
(4) 「選挙公報」の閲読状況	121
6 区議会	123
(1) 「こうとう区議会だより」の閲読状況	125
(2) 充実・導入してほしい議会情報の発信媒体	128
7 図書館	131
(1) 区内図書館の利用頻度	133
(2) 図書館サービスへの要望	136
8 江東区ブランディング戦略	139
(1) 区のロゴマークやブランドコンセプトの認知状況	141
(2) 区に持っている印象	143

9	緑化推進	147
	(1) 区内のみどりの満足度	149
	(2) どんな時に、みどりがあって良かったと感じるか	152
	(3) 取り組んでいる、または今後取り組みたいと思うみどりに関する事業	156
10	公園	161
	(1) 公園の利用頻度	163
	(2) 公園を利用する主な目的	166
	(3) 公園の遊具についての考え	169
	(4) 公園整備のあり方についての考え	171
11	環境美化	173
	(1) 区民の環境美化意識の向上を図るために必要だと思うもの	175
12	児童虐待	179
	(1) 身近で児童虐待があった場合の通告（相談）の有無	181
	(2) 通告（相談）をしない、または、するかわからない理由	184
	(3) 思いつく通告（相談）先	186
13	広報	189
	(1) 「こうとう区報」の閲読状況	191
	(2) 「こうとう区報」について、不満に感じている点	194
	(3) 区が行っている事業やイベント、仕事内容などの認知媒体	196
	(4) 「江東ワイドスクエア」の視聴状況	200
	(5) 「江東ワイドスクエア」の視聴時間帯	202
	(6) 「江東ワイドスクエア」インターネット配信の認知媒体	204
	(7) 「江東ワイドスクエア」で興味のある内容	205
14	ICT	209
	(1) インターネットが利用できる情報通信機器の保有状況	211
	(2) 主に使用する情報通信機器	213
	(3) 区の電子申請の利用状況	215
	(4) 利用したい区の電子申請の手続き	218
	(5) 区の電子申請について、不満や不安に思っていること	221
15	男女共同参画	223
	(1) 配偶者との家事の役割分担	225
16	コロナ禍による生活の変化	227
	(1) 新型コロナウイルス感染症による日常生活の変化	229
17	施策への要望	233
	(1) 力を入れてほしい施策	235

目次

《巻末資料1》	クロス集計表	241
1	定住性	243
2	防災対策	246
3	ごみ・リサイクル	250
4	交通	252
5	選挙	255
6	区議会	259
7	図書館	261
8	江東区ブランディング戦略	263
9	緑化推進	265
10	公園	269
11	環境美化	273
12	児童虐待	274
13	広報	276
14	I C T	281
15	男女共同参画	286
16	コロナ禍による生活の変化	287
17	施策への要望	288
18	フェイスシート	296
《巻末資料2》	調査票のサンプル	303
1	定住性	306
2	防災対策	307
3	ごみ・リサイクル	308
4	交通	309
5	選挙	310
6	区議会	311
7	図書館	311
8	江東区ブランディング戦略	312
9	緑化推進	313
10	公園	314
11	環境美化	315
12	児童虐待	316
13	広報	317
14	I C T	319
15	男女共同参画	320
16	コロナ禍による生活の変化	321
17	施策への要望	321
18	フェイスシート	322

第 1 章 調査の概要

1 調査目的

江東区政の各分野について区民の意識や動向、意見や要望などを把握することにより、今後の区政運営の参考に資する。

2 調査内容

- (1) 定住性
- (2) 防災対策
- (3) ごみ・リサイクル
- (4) 交通
- (5) 選挙
- (6) 区議会
- (7) 図書館
- (8) 江東区ブランディング戦略
- (9) 緑化推進
- (10) 公園
- (11) 環境美化
- (12) 児童虐待
- (13) 広報
- (14) ICT
- (15) 男女共同参画
- (16) コロナ禍による生活の変化
- (17) 施策への要望

3 調査設計

- (1) 調査地域：江東区全域
- (2) 調査対象：江東区在住の満18歳以上の男女（外国人を含む）
- (3) 標本数：3,000人 ※標本数＝調査対象者数
- (4) 標本抽出：住民基本台帳からの層化2段無作為抽出
※詳細な手順はページ下の「■ 標本抽出」の通り
- (5) 調査方法：郵送配布－郵送・Web回収法
- (6) 調査期間：令和3年7月16日（金）～8月9日（月）
※調査は3週間かけて実施した。
- (7) 調査機関：株式会社 アダムスコミュニケーション
- (8) 備考：調査の実施にあたっては、回収率向上のため、以下の①～③を行った。
①区報（R3.7.1号）、および、区ホームページにて調査について周知した。
②調査期間開始の約1週間前に、予告はがきを調査対象者あてに送付した。
③調査期間開始から約2週間経過後に、お礼（督促）はがきを調査対象者あてに送付した。
- (9) 特記事項：調査方法を、前回の「郵送配布－郵送回収法」から「郵送配布－郵送・Web回収法」に変更を行った。

■ 標本抽出

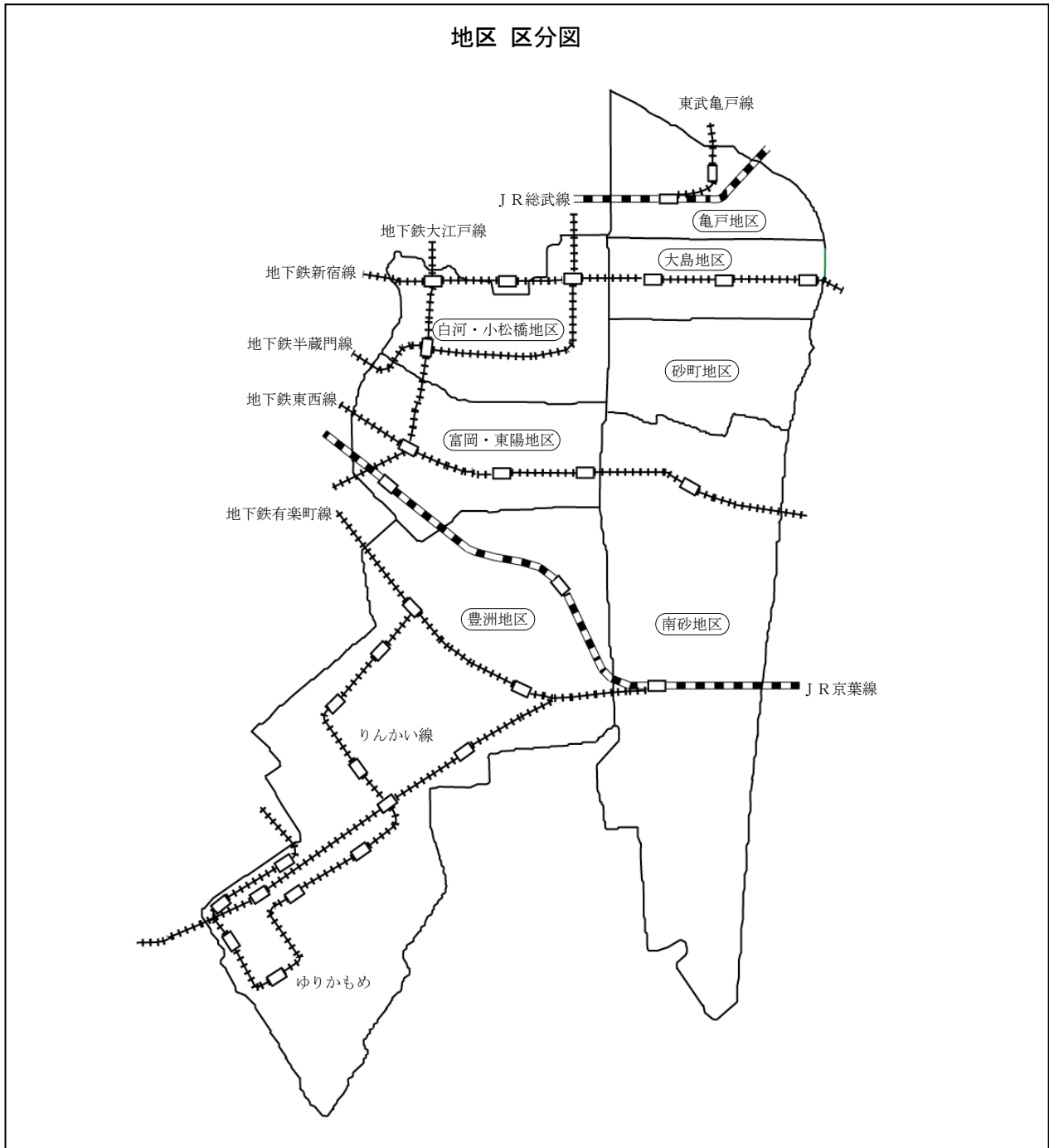
住民基本台帳からの層化2段無作為抽出

(i) 標本設計

- ①母集団：令和3年6月1日現在の江東区住民基本台帳上の満18歳以上の男女（外国人を含む）
- ②地点数：150地点（1地点20人）
- ③標本数：3,000人（150地点×20人／1地点）

(ii) 標本抽出の手順の詳細

- ①層化：1又は2箇所の出張所（旧出張所を含む）の所管区域を単位として7地区に層化を行う。（次ページ参照）
- ②地点数配分：各地区の住民数に比例する形で、地点数150地点を配分する。
※住民数が多ければ、配分される地点数がそれに応じて多くなる。
- ③スタート地点：各地区のスタート地点を、3ケタのランダム数により決定する。
※仮に、大島地区における3ケタのランダム数が435であった場合、住民基本台帳上の435番目の方がスタート地点となる。
- ④地点当り人数：各地区ごとに、住民数と地点数に応じて、地点当り人数を定める。
※地点当り人数＝住民数÷地点数（小数点以下は切り捨て）
- ⑤地点抽出：各地区において、スタート地点を起点として、地点当り人数を地点数の数だけ足し合わせていくことで、地点を抽出する。
※1地点目：スタート地点、2地点目：スタート地点＋地点当り人数、3地点目：スタート地点＋地点当り人数×2、...
- ⑥対象者抽出：抽出された各地点より、1地点当り20人の調査対象者を抽出する。
※15人間隔での抽出を20回繰り返すことで20人を抽出する。



地区・地名等 対応表

	地区	地名等
1	白河・小松橋	清澄、常盤、新大橋、森下、平野、三好、白河、高橋、千石、石島、千田、海辺、扇橋、猿江、住吉、毛利
2	富岡・東陽	佐賀、永代、福住、深川、冬木、門前仲町、富岡、牡丹、古石場、越中島、木場、東陽、南砂2丁目1番1～5号・5～7番、新砂1丁目1番
3	豊洲	塩浜、枝川、豊洲、東雲、有明、辰巳、潮見、青海、海の森
4	亀戸	亀戸
5	大島	大島
6	砂町	北砂、南砂1・5丁目、南砂2丁目24～34番、東砂1～5丁目
7	南砂	東砂6～8丁目、南砂2丁目（1番1～5号・5～7番・24～34番を除く）・3・4・6・7丁目、新砂1丁目（1番を除く）・2・3丁目、夢の島、新木場、若洲

※令和3年6月1日現在

4 回収結果

- (1) 標本数：3,000人 ※標本数＝調査対象者数
 (2) 回収数：1,661人（郵送回収：1,118人、Web回収：543人）
 (3) 回収率：55.4%

回収結果内訳（地区／性別／年齢／性別×年齢）

		住民数 (18歳以上) ※R3.6.1現在		標本数 (調査対象者数) A		回収数 B		回収率 C=B/A	
			構成比		構成比		構成比		
合計		448,470	100.0%	3,000	100.0%	1,661	100.0%	55.4%	
地区	白河・小松橋	73,629	16.4%	500	16.7%	288	17.3%	57.6%	
	富岡・東陽	65,596	14.6%	440	14.7%	257	15.5%	58.4%	
	豊洲	97,365	21.7%	620	20.7%	338	20.3%	54.5%	
	亀戸	52,568	11.7%	360	12.0%	178	10.7%	49.4%	
	大島	55,458	12.4%	380	12.7%	205	12.3%	53.9%	
	砂町	65,645	14.6%	440	14.7%	231	13.9%	52.5%	
	南砂	38,209	8.6%	260	8.7%	137	8.2%	52.7%	
	(無回答)	—	—	—	—	27	1.6%	—	
性別	男性	219,076	48.8%	1,557	51.9%	716	43.1%	46.0%	
	女性	229,394	51.2%	1,443	48.1%	919	55.3%	63.7%	
	(無回答)	—	—	—	—	26	1.6%	—	
年齢	18～29歳	67,150	15.0%	468	15.6%	169	10.2%	36.1%	
	30～39歳	77,300	17.2%	566	18.9%	271	16.3%	47.9%	
	40～49歳	91,178	20.3%	631	21.0%	343	20.7%	54.4%	
	50～59歳	74,888	16.7%	487	16.2%	287	17.3%	58.9%	
	60～69歳	50,035	11.2%	325	10.8%	235	14.1%	72.3%	
	70歳以上	87,919	19.6%	523	17.4%	333	20.0%	63.7%	
	(無回答)	—	—	—	—	23	1.4%	—	
性別×年齢	男性	18～29歳	33,977	15.5%	226	14.5%	67	9.4%	29.6%
		30～39歳	38,640	17.6%	292	18.8%	115	16.1%	39.4%
		40～49歳	45,929	21.0%	330	21.2%	164	22.9%	49.7%
		50～59歳	38,626	17.6%	251	16.1%	136	19.0%	54.2%
		60～69歳	24,728	11.3%	155	10.0%	99	13.8%	63.9%
		70歳以上	37,176	17.0%	189	12.1%	134	18.7%	70.9%
		(無回答)	—	—	—	—	1	0.1%	—
	女性	18～29歳	33,173	14.5%	242	16.8%	101	11.0%	41.7%
		30～39歳	38,660	16.9%	274	19.0%	155	16.9%	56.6%
		40～49歳	45,249	19.7%	301	20.9%	178	19.4%	59.1%
		50～59歳	36,262	15.8%	236	16.4%	150	16.3%	63.6%
		60～69歳	25,307	11.0%	170	11.8%	136	14.8%	80.0%
		70歳以上	50,743	22.1%	334	23.1%	199	21.7%	59.6%
		(無回答)	—	—	—	—	0	0.0%	—

5 標本誤差

標本誤差とは・・・

今回の調査では、令和3年6月1日における江東区在住の満18歳以上の男女（外国人を含む）448,470人から、3,000人を抽出して標本調査を行った。

本調査の様に、全体（母集団）から一部を抽出して行う標本調査では、全体（母集団）を対象に行った調査に比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことを標本誤差という。

標本誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、数学的に計算することが可能である。なお、標本誤差は①比率算出の基礎（回答者数）〔n〕および②回答の比率（%）〔P〕によっても異なる。標本誤差の計算式および第25回江東区政世論調査における標本誤差については以下のとおり。

標本誤差の計算式

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N = 母集団数（江東区の満18歳以上の人口）
n = 比率算出の基礎（回答者数）
P = 回答の比率（%）

第25回江東区政世論調査における標本誤差

回答の比率〔P〕 基礎 (回答者数)〔n〕	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
1,661	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.4%	± 3.5%
1,000	± 2.7%	± 3.6%	± 4.1%	± 4.4%	± 4.5%
800	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
600	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
400	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
200	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%
100	± 8.5%	± 11.3%	± 13.0%	± 13.9%	± 14.1%

※表の見方：例えば、問2の回答者数が1,661人で、江東区に「ずっと住みたい（住むつもり）」と回答した割合が48.6%であった場合、「その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.5%以内（45.1%～52.1%）である」と見ることが出来る。《基礎（回答者数）〔n〕が1,661、回答の比率〔P〕が50%前後においては、標本誤差は、±3.5%のため。》

※表は、 $\left(\frac{N-n}{N-1} \div 1 \right)$ として算出した。

6 報告書の見方

(1) 集計

(i) 集計方法

集計は、「①単純集計」と「②クロス集計」の2種類を行った。

①単純集計

設問ごとの、それぞれの選択肢に何人が回答したのかについての単純な集計

②クロス集計

回答者の属性（地区など）と各設問を縦横に掛け合わせた（クロスした）集計

(ii) クロス集計項目

クロス集計を行う項目については、フェイスシート関連8項目および、それに準ずる設問として2項目、計10項目を採用した。

①地区（F1）、②性別（F2）、③年齢（F3）、④性別×年齢（F2×F3）

⑤国籍（F4）、⑥職業（F5）、⑦同居人の有無（F6）、⑧住居形態（F7）

⑨居住年数（問1）、⑩定住・転出意向（問2）

(iii) クロス集計表

《巻末資料1》クロス集計表には、上記の10項目（①～⑩）を基本分類軸として掲載した。また、《巻末資料1》クロス集計表および本編中のクロス集計結果のグラフや表の分類軸は、無回答を省いたものを掲載している。

(2) 回答率（%）

(i) 回答率（%）の表記

回答率（%）は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位を算出したものを使用した。

(ii) 単一回答の設問

上記の（i）により、単一回答（選択肢を1つだけ選ぶ）設問において、すべての選択肢の回答率を合計しても100%に満たない、または上回る場合がある。

(iii) 複数の回答の合計値

2つ以上の選択肢を合わせた項目の回答率（%）を表記する場合、その回答率（%）は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、回答率（%）を再計算したものを使用している。このため、複数の回答の合計値と図表の数字が一致しない場合がある。

(iv) 回答率（%）の比較

回答率（%）の比較を行うにあたっては、ポイントと表記している。

回答率の合計が100%にならない、または、複数の回答の合計値が一致しない例

	四捨五入前の回答率（小数点第2位）	四捨五入後の回答率（小数点第1位）
選択肢A	50.15%	50.2%
選択肢B	39.85%	39.9%
選択肢C	10.00%	10.0%
合計	100.00%	100.1%

90.00% = 90.0% → 90.1%

100%にならない

四捨五入前の回答率の合計と一致しない

(3) 割合の表現

数値を考察するにあたり、割合の表現は以下の表の通りとしている。

区分	詳細	表現	
0.0%~9.9%	0.0%の場合	記述せず	
	0.1%以上で、5.0%には満たない場合	わずか	
	5.0%以上で、10.0%には満たない場合	1割未満	
10.0%~100.0%	1の位と小数点第1位が、 右記の場合	0.0~0.4%	〇割
		0.5~0.9%	ほぼ〇割
		1.0~3.9%	〇割を超え
		4.0~6.4%	〇割台半ば
		6.5~8.9%	〇割近く
		9.0~9.4%	ほぼ〇割
		9.5~9.9%	〇割
まとめる場合	同じ%台をまとめる場合(※1)	〇割台	
	2つの前後の%にまたがる場合(※2)	〇割前後	
	2つの後の%台にまたがる場合(※3)	〇割以上	

※1~3の具体例および表現例は以下の通り。

(※1) 71.2%と76.8%であれば、7割台

(※2) 69.3%と71.2%であれば、7割前後

(※3) 71.2%と83.4%であれば、7割以上

(4) 文章の一部省略および語句の簡略化

(i) 「第3章 調査結果の概要」における、設問の回答ルール案内文の取り扱い

①単一回答（選択肢を1つだけ選ぶ）設問については、調査票に記載した回答ルールに関する案内文を省略している。

（省略した案内文の例：次の中から1つだけ選んでください。）

②複数回答（選択肢を複数選ぶ）設問については、調査票に記載した回答ルールに関する案内文を省略した上で、複数回答の設問である旨を明示している。

（省略した案内文の例：次の中から2つまで選んでください。）

（複数回答の設問である旨の明示の例：（複数回答）※2つまで）

(ii) 「第4章 調査結果の分析」「《巻末資料1》クロス集計表」における、
設問文や選択肢の取り扱い

①設問文や選択肢を表において記述する場合、適宜、文章の一部省略や語句の簡略化を行っている。

7 調査設計及び回収結果の履歴一覧

第1回（昭和48年度）から第25回（令和3年度）までの調査設計及び回収結果の履歴一覧は、以下のとおり。本報告書の一部の設問において、過年度比較を行っている。比較を行うにあたっては、調査設計の違い等について留意する必要がある。

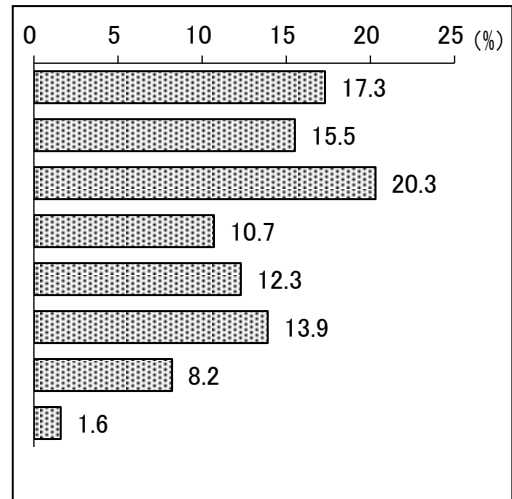
調査設計及び回収結果の履歴一覧

回数	実施年度	調査対象年齢	調査方法	調査対象者数	回答数	回答率
1	昭和48年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	819	81.9%
2	昭和50年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	827	82.7%
3	昭和52年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	815	81.5%
4	昭和54年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	791	79.1%
5	昭和56年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	819	81.9%
6	昭和58年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	990	82.5%
7	昭和60年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	976	81.3%
8	昭和62年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	938	78.2%
9	平成元年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	914	76.2%
10	平成3年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	1,027	85.6%
11	平成5年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	1,024	85.3%
12	平成7年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	994	82.8%
13	平成9年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	954	79.5%
14	平成11年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	931	77.6%
15	平成13年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	947	78.9%
16	平成15年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	951	79.3%
17	平成17年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	1,017	84.8%
18	平成19年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	935	77.9%
19	平成21年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	899	74.9%
20	平成23年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	904	75.3%
21	平成25年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	906	75.5%
22	平成27年	20歳以上	個別面接聴取法	1,500人	1,061	70.7%
23	平成29年	18歳以上	個別面接聴取法	1,500人	980	65.3%
24	令和元年	18歳以上	郵送配布－郵送回収法	3,000人	1,668	55.6%
25	令和3年	18歳以上	郵送配布－郵送・Web回収法	3,000人	1,661	55.4%

第2章 調査回答者の属性

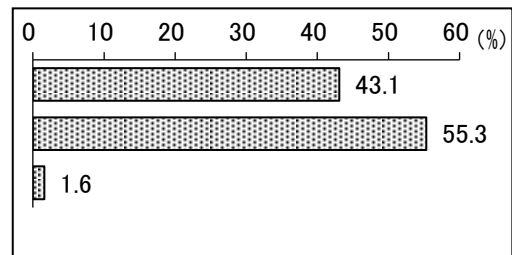
1 地区

No.	地区	回答者数	構成比
1	白河・小松橋	288	17.3%
2	富岡・東陽	257	15.5%
3	豊洲	338	20.3%
4	亀戸	178	10.7%
5	大島	205	12.3%
6	砂町	231	13.9%
7	南砂	137	8.2%
—	(無回答)	27	1.6%
合計		1,661	100.0%



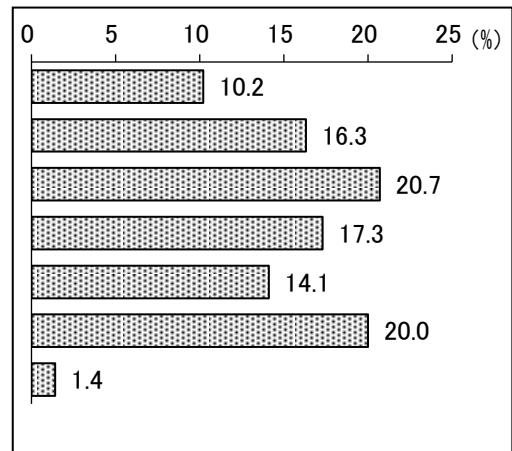
2 性別

No.	性別	回答者数	構成比
1	男性	716	43.1%
2	女性	919	55.3%
—	(無回答)	26	1.6%
合計		1,661	100.0%



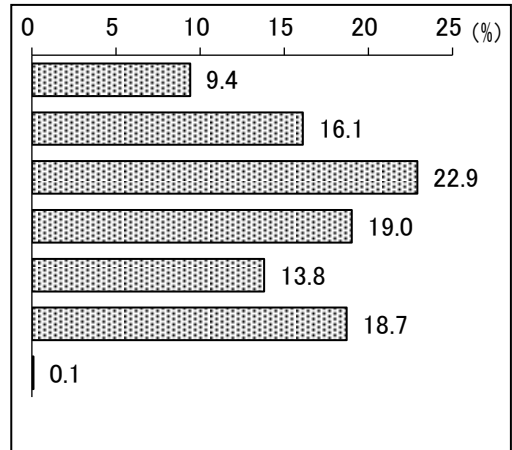
3 年齢

No.	年齢	回答者数	構成比
1	18～29 歳	169	10.2%
2	30～39 歳	271	16.3%
3	40～49 歳	343	20.7%
4	50～59 歳	287	17.3%
5	60～69 歳	235	14.1%
6	70 歳以上	333	20.0%
—	(無回答)	23	1.4%
合計		1,661	100.0%

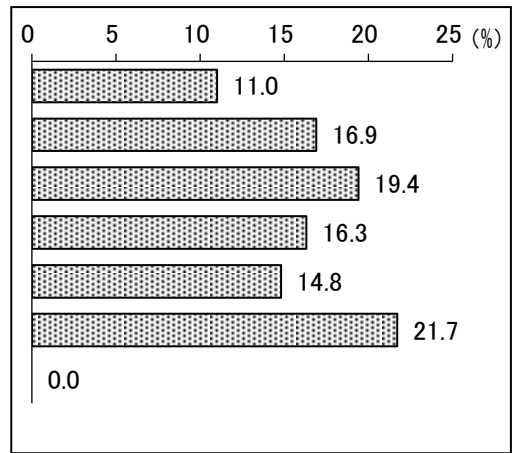


4 性別×年齢

性別	年齢	回答者数	構成比
男性	18～29歳	67	9.4%
	30～39歳	115	16.1%
	40～49歳	164	22.9%
	50～59歳	136	19.0%
	60～69歳	99	13.8%
	70歳以上	134	18.7%
	(無回答)	1	0.1%
男性 合計		716	100.0%

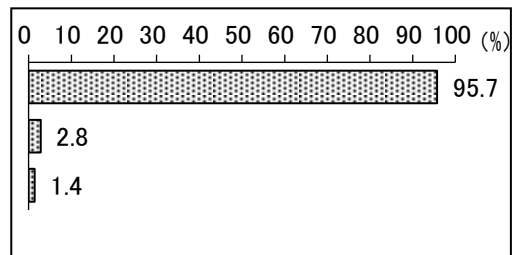


性別	年齢	回答者数	構成比
女性	18～29歳	101	11.0%
	30～39歳	155	16.9%
	40～49歳	178	19.4%
	50～59歳	150	16.3%
	60～69歳	136	14.8%
	70歳以上	199	21.7%
	(無回答)	0	0.0%
女性 合計		919	100.0%



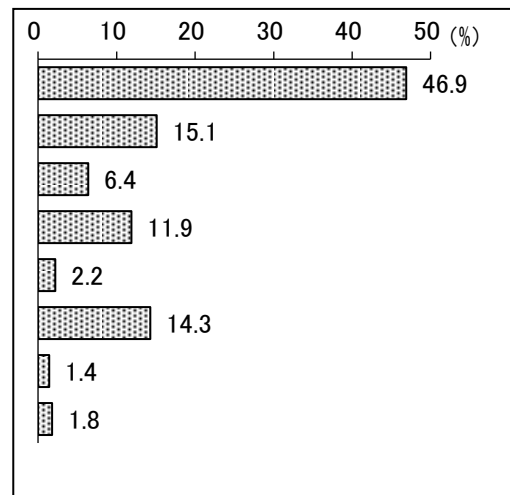
5 国籍

No.	国籍	回答者数	構成比
1	日本	1590	95.7%
2	日本以外 (外国籍)	47	2.8%
—	(無回答)	24	1.4%
合計		1,661	100.0%



6 職業

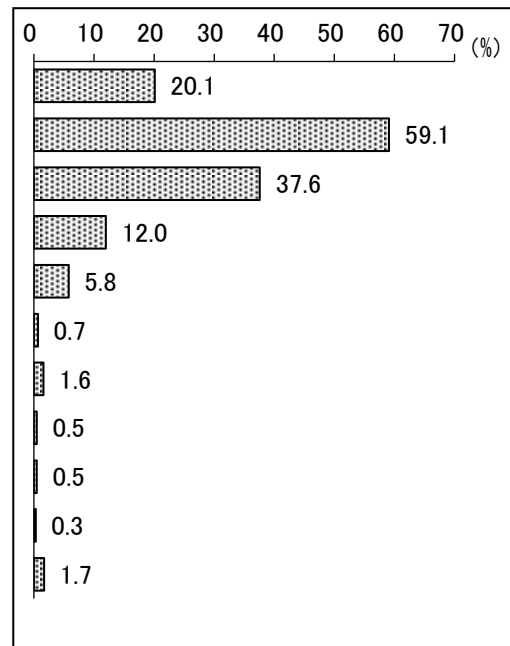
No.	地区	回答者数	構成比
1	会社員、公務員、団体職員	779	46.9%
2	パート・アルバイトなど(※)	250	15.1%
3	自営業・自由業	107	6.4%
4	専業主婦・主夫	198	11.9%
5	学生	37	2.2%
6	無職	237	14.3%
7	その他	23	1.4%
—	(無回答)	30	1.8%
合計		1,661	100.0%



※「パート・アルバイトなど」は非常勤・嘱託・派遣などを含む。

7 同居人の有無（複数回答可）

No.	同居人の有無	回答者数	構成比
1	ひとり暮らし	334	20.1%
2	配偶者(※1)	982	59.1%
3	子ども(※2)	624	37.6%
4	父母(※3)	200	12.0%
5	兄弟姉妹	96	5.8%
6	祖父母(※4)	12	0.7%
7	孫(※5)	27	1.6%
8	親戚	9	0.5%
9	知人・友人	8	0.5%
10	その他	5	0.3%
—	(無回答)	29	1.7%
合計		1,661	100.0%



※1 「2 配偶者」は、事実婚、同棲しているパートナーを含む。

※2 「3 子ども」は、嫁・婿など子どもの配偶者を含む。

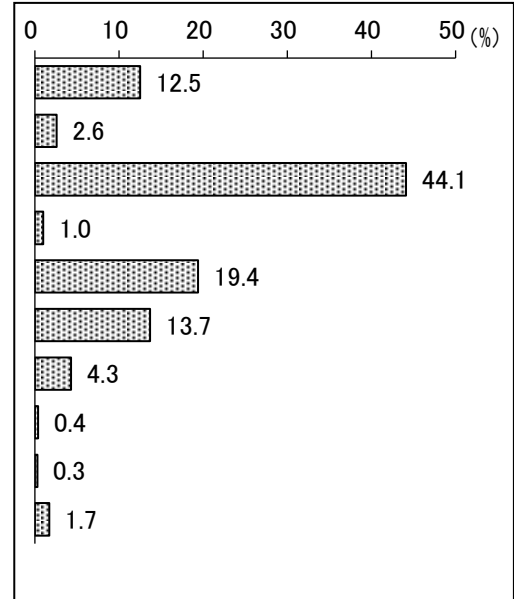
※3 「4 父母」は、義理の父母を含む。

※4 「6 祖父母」は、義理の祖父母を含む。

※5 「7 孫」は、孫の配偶者を含む。

8 住居形態

No.	住居形態		回答者数	構成比
1	持ち家	一戸建て 自己所有地	207	12.5%
2		一戸建て 借地	44	2.6%
3	集合住宅		733	44.1%
4	賃貸	一戸建て	16	1.0%
5		集合住宅 民間	322	19.4%
6			集合住宅 都営等 (※)	227
7		寮・社宅	72	4.3%
8	間借り・住み込み		6	0.4%
9	その他		5	0.3%
—	(無回答)		29	1.7%
合計			1,661	100.0%



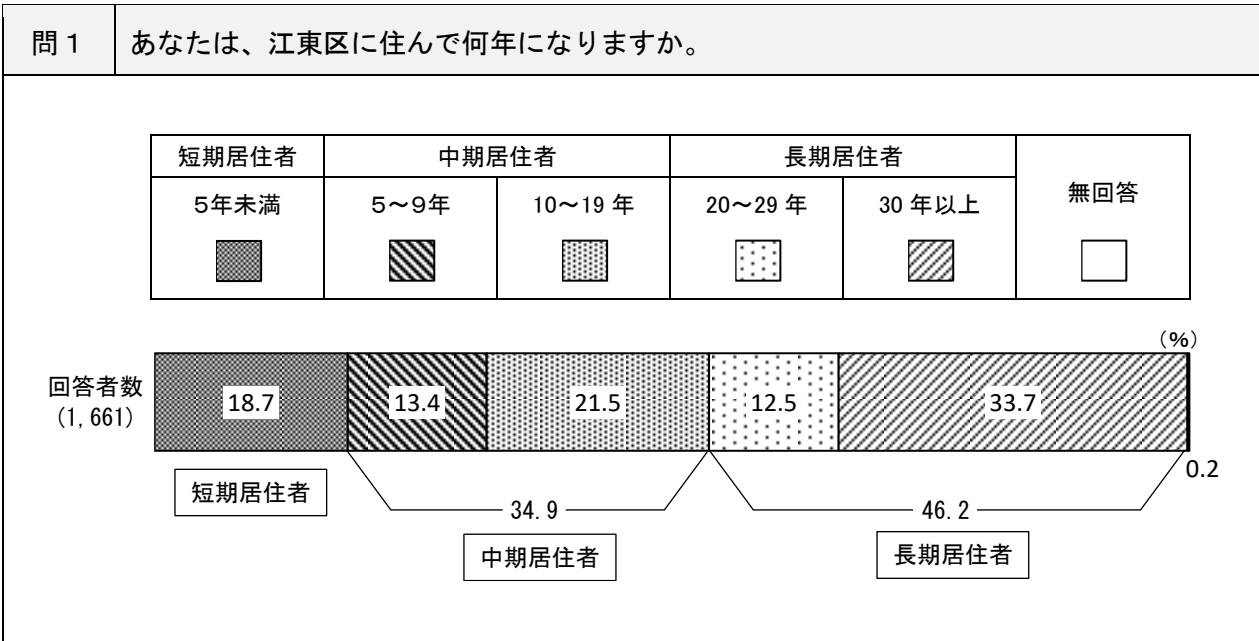
※「都営等」は、都営のほか、UR・J K K・区営を含む。

第3章 調査結果の概要

1 定住性

(1) 居住年数

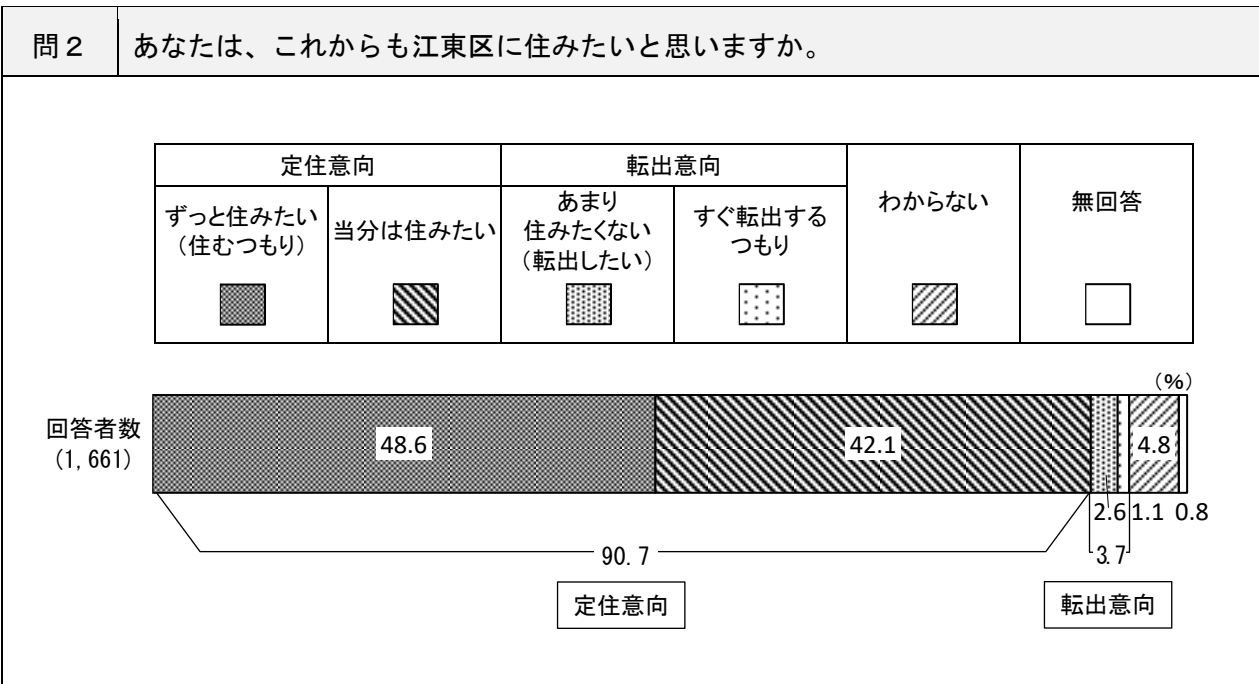
◇「長期居住者」は4割台半ば



○居住年数については、「20～29年」(12.5%)と「30年以上」(33.7%)の2つを合わせた「長期居住者」(46.2%)が4割台半ばとなっている。

(2) 定住・転出意向

◇「定住意向」はほぼ9割

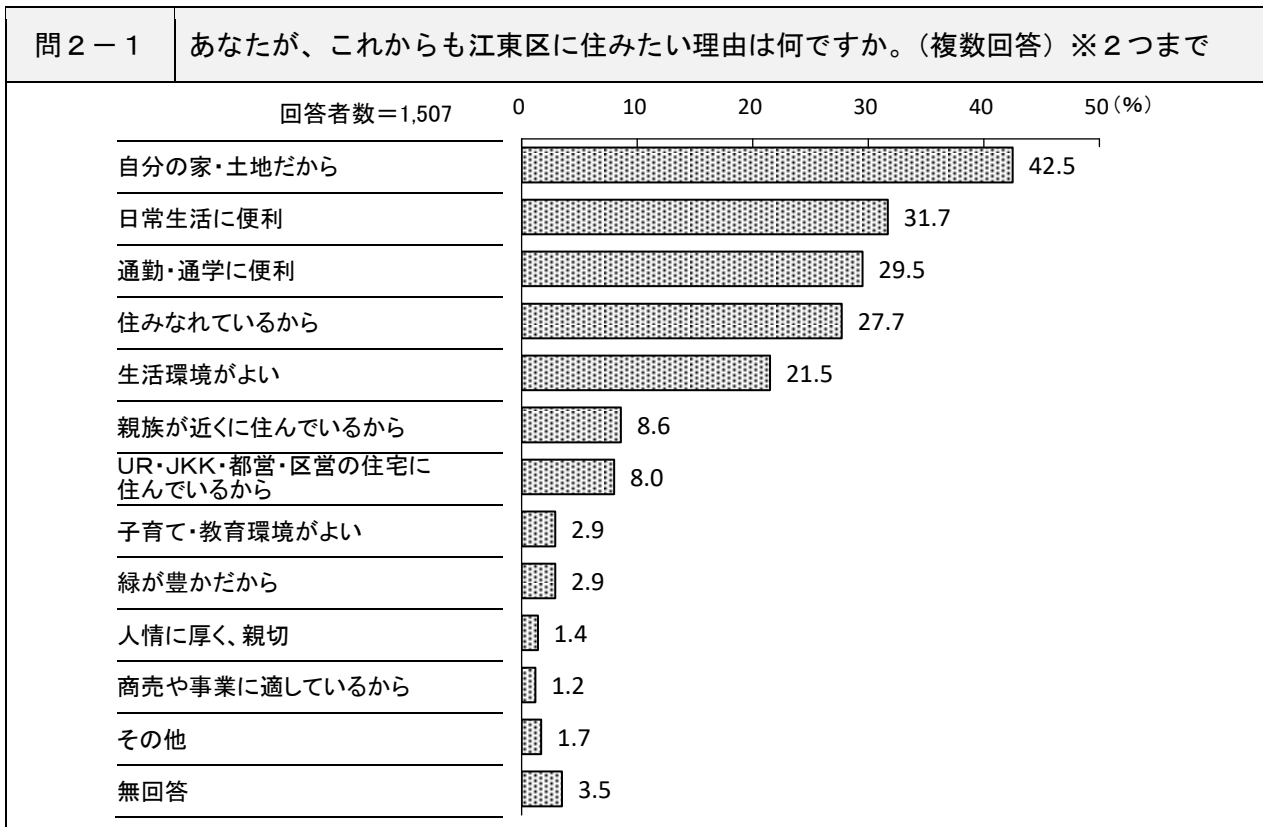


○定住・転出意向については、「ずっと住みたい (住むつもり)」(48.6%)と「当分は住みたい」(42.1%)の2つを合わせた「定住意向」(90.7%)はほぼ9割となっている。

第3章
調査結果の概要
1 定住性

(3) 定住意向理由

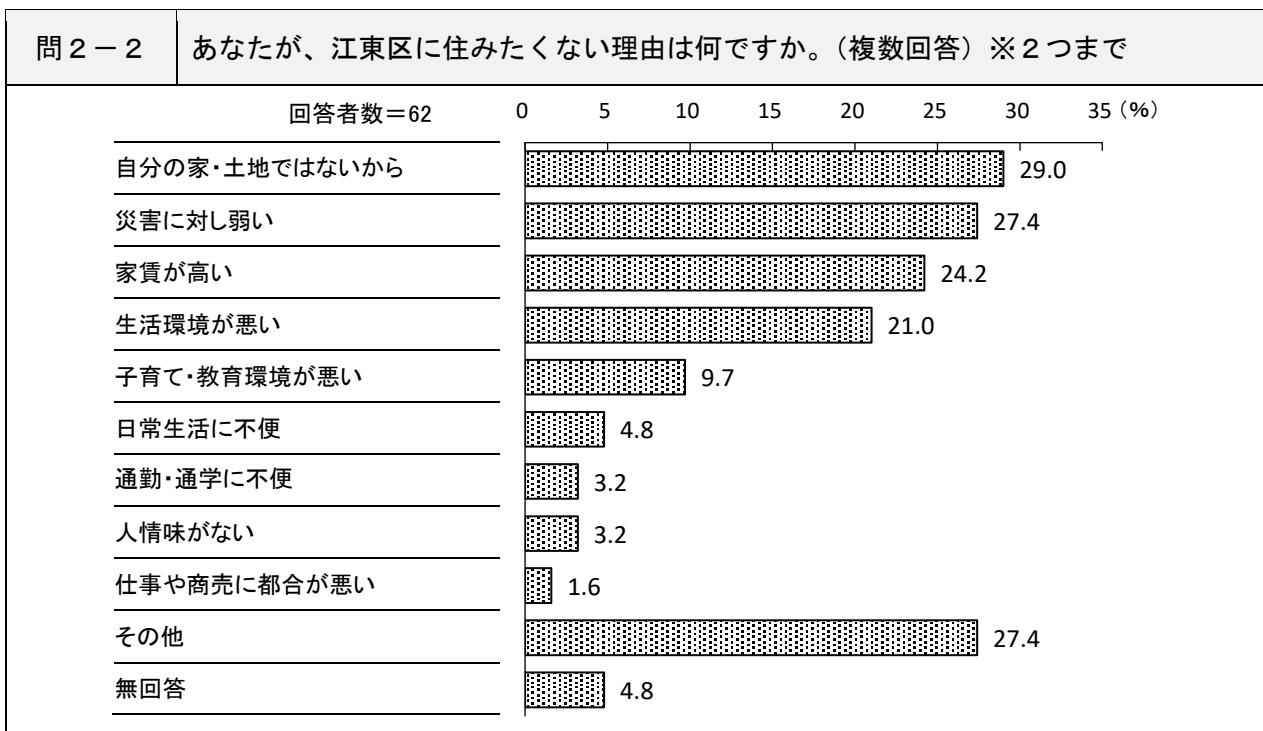
◇「自分の家・土地だから」が4割を超える



○定住意向理由については、「自分の家・土地だから」(42.5%)が4割を超えて最も多く、次いで「日常生活に便利」(31.7%)、「通勤・通学に便利」(29.5%)と続いている。

(4) 転出意向理由

◇「自分の家・土地ではないから」がほぼ3割

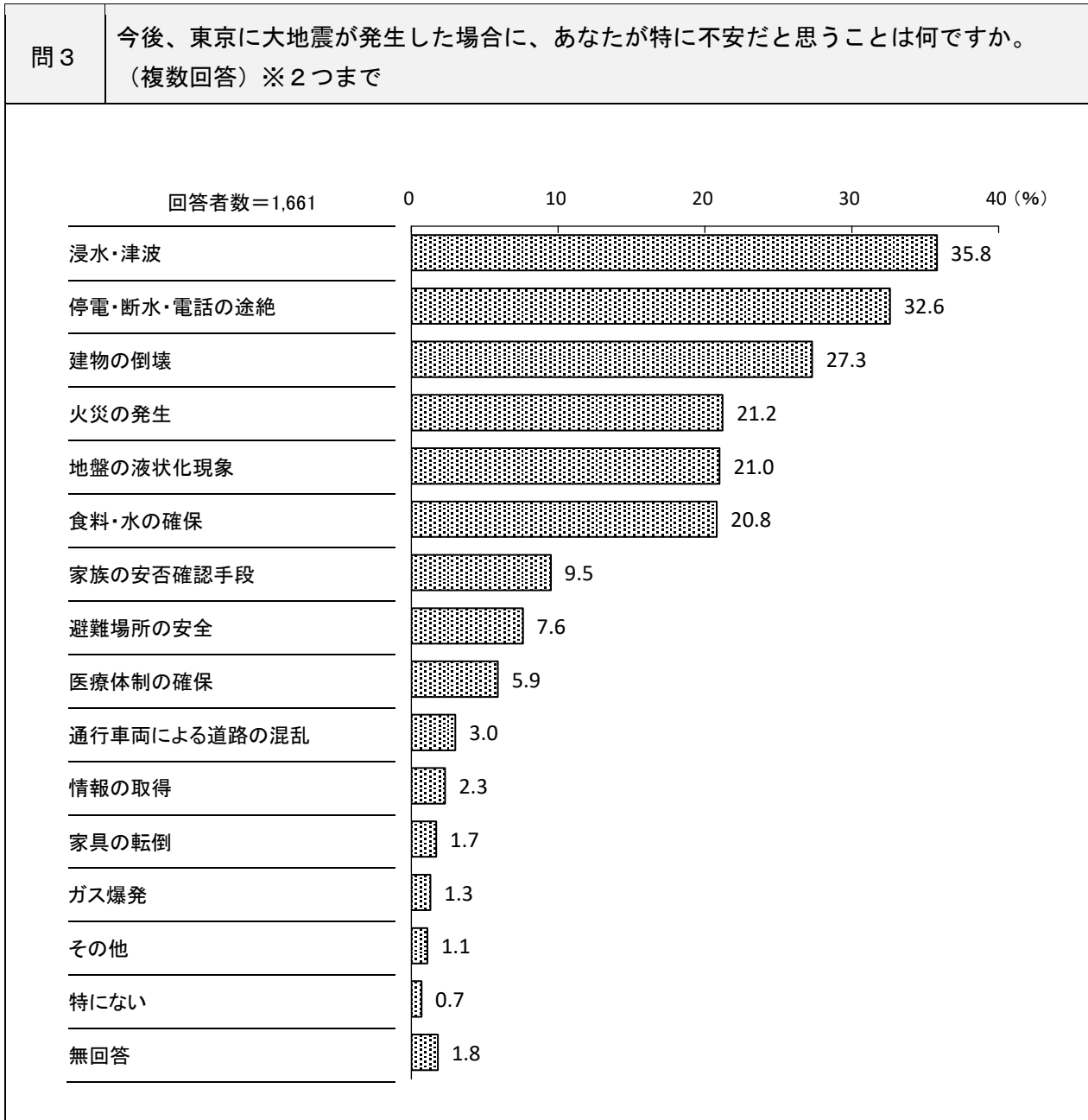


○転出意向理由としては、「自分の家・土地ではないから」(29.0%)がほぼ3割で最も多く、次いで「災害に対し弱い」(27.4%)、「家賃が高い」(24.2%)と続いている。

2 防災対策

(1) 震災時の不安

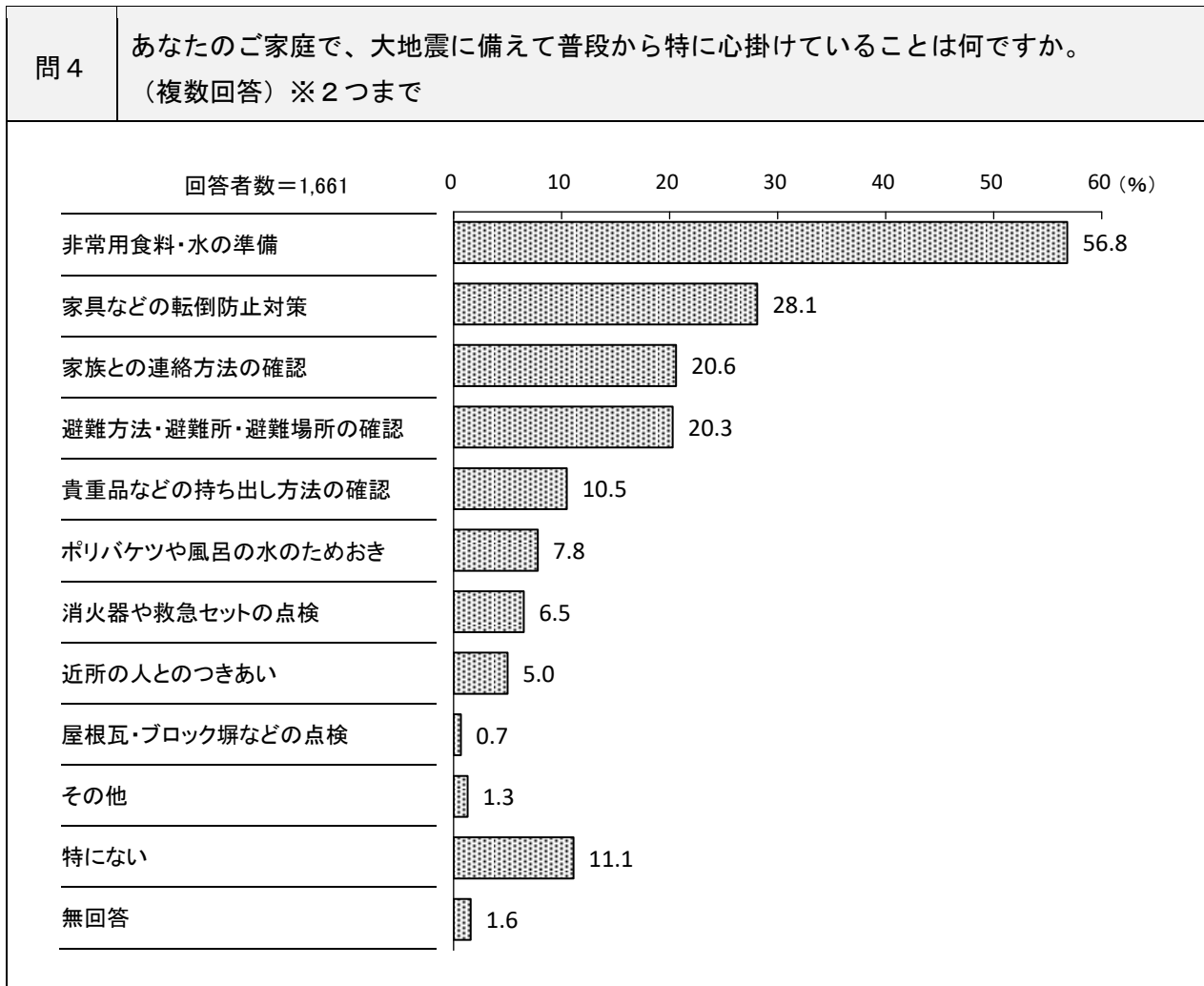
◇「浸水・津波」が3割台半ば



○大地震が起きたときに特に不安だと思うことを聞いたところ、「浸水・津波」(35.8%)が3割台半ばで最も多く、次いで「停電・断水・電話の途絶」(32.6%)、「建物の倒壊」(27.3%)と続いている。

(2) 震災時の備え

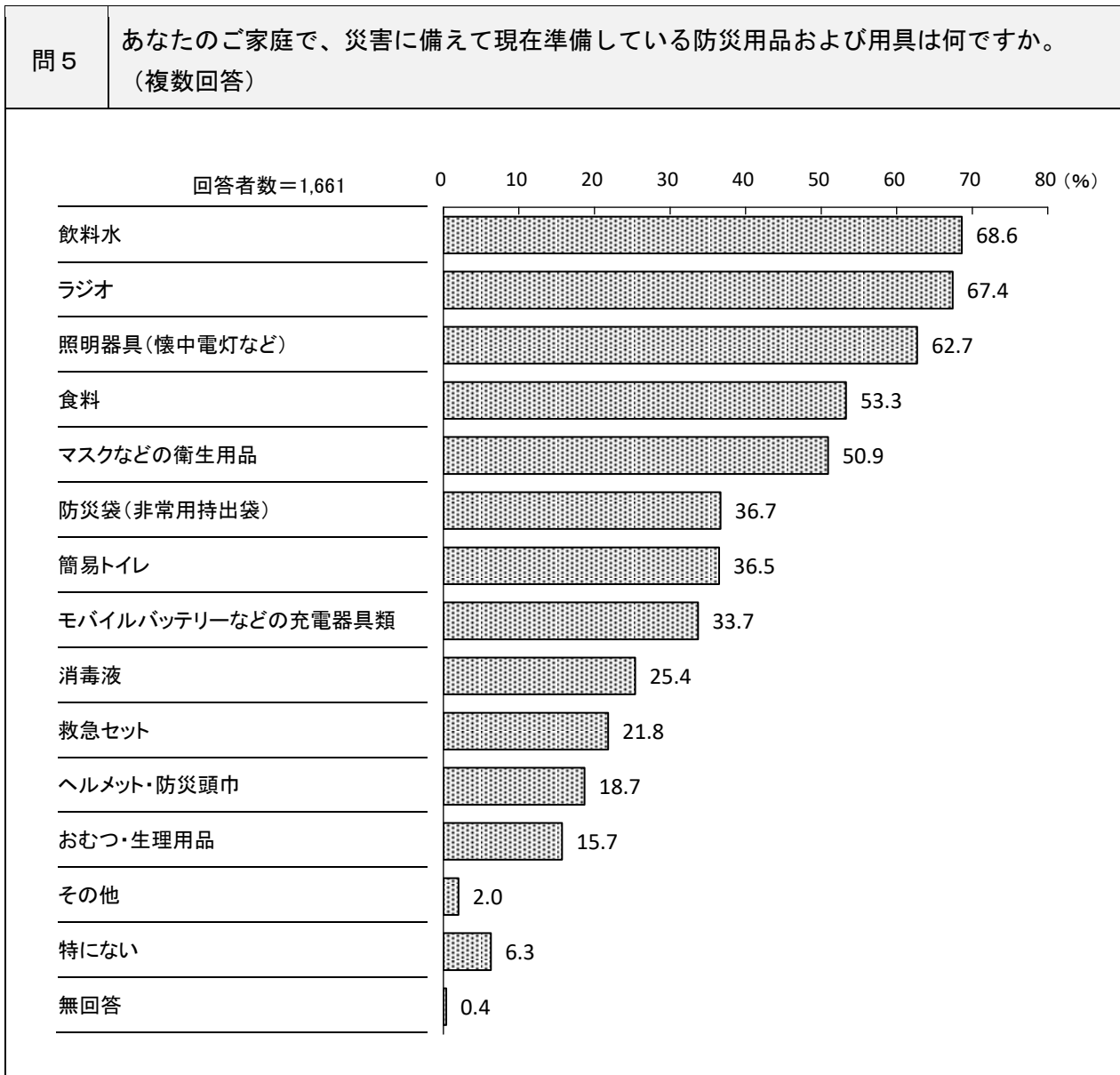
◇「非常用食料・水の準備」が6割近く



○大地震に備えて家庭で普段から特に心掛けていることは何か聞いたところ、「非常用食料・水の準備」(56.8%)が6割近くで最も多く、次いで「家具などの転倒防止対策」(28.1%)、「家族との連絡方法の確認」(20.6%)、「避難方法・避難所・避難場所の確認」(20.3%)と続いている。

(3) 家庭内で準備している防災用品・用具

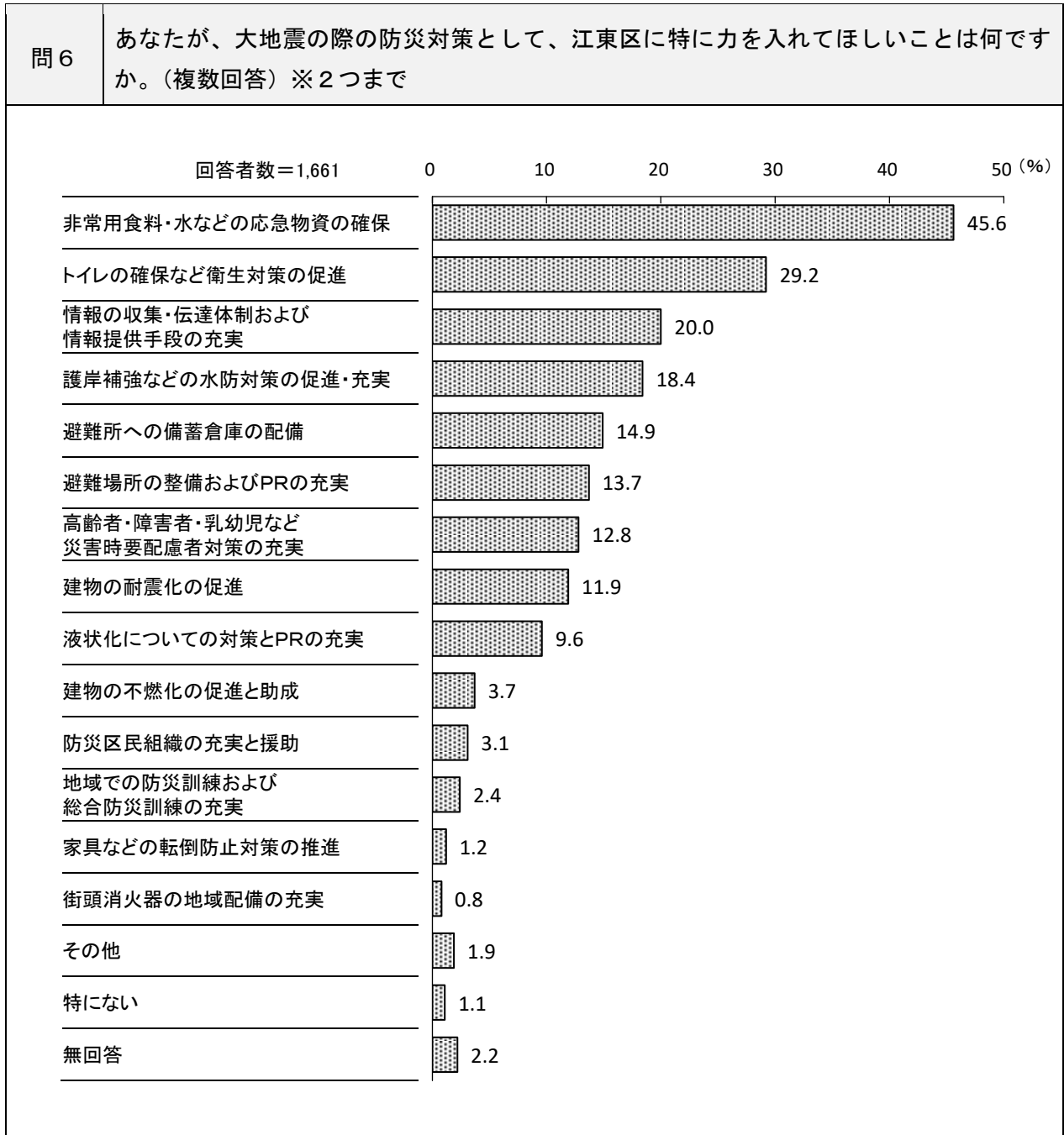
◇「飲料水」と「ラジオ」が7割近く



○災害に備えて家庭で準備している防災用品および用具を聞いたところ、「飲料水」(68.6%)が7割近くで最も多く、次いで「ラジオ」(67.4%)、「照明器具(懐中電灯など)」(62.7%)と続いている。

(4) 防災対策への要望

◇「非常用食料・水などの応急物資の確保」が4割台半ば

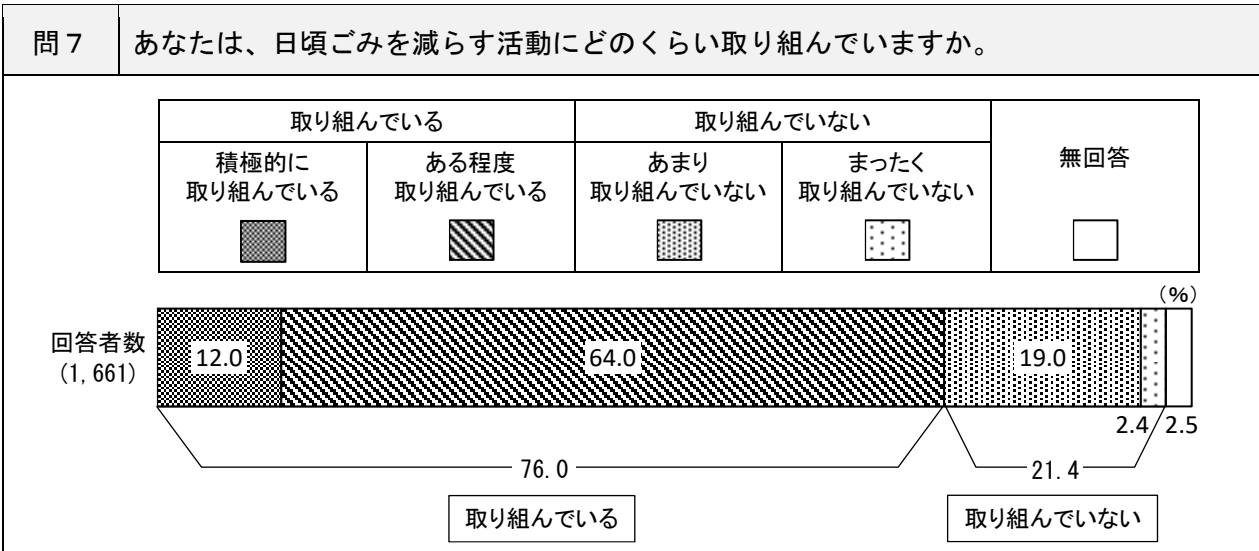


○大地震の際の防災対策として特に力を入れてほしいことは何か聞いたところ、「非常用食料・水などの応急物資の確保」(45.6%)が4割台半ばで最も多く、次いで「トイレの確保など衛生対策の促進」(29.2%)、「情報の収集・伝達体制および情報提供手段の充実」(20.0%)と続いている。

3 ごみ・リサイクル

(1) ごみを減らす活動の取り組み状況

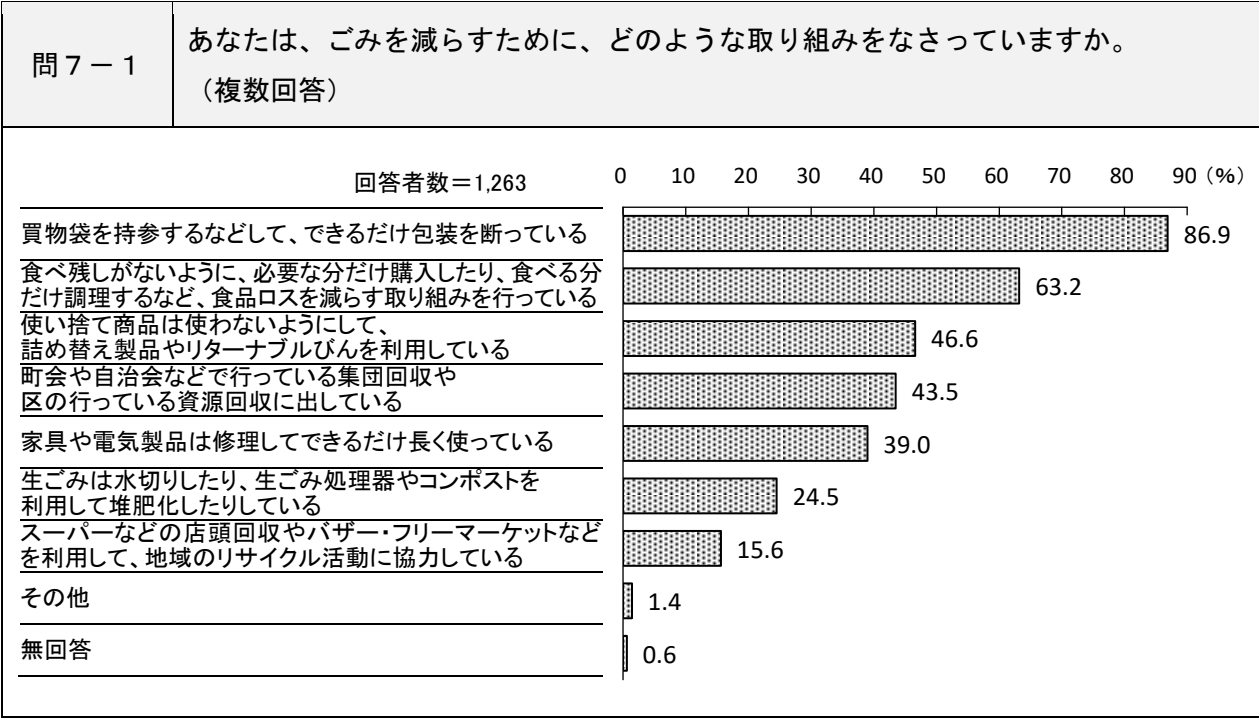
◇《取り組んでいる》は7割台半ば



○日頃ごみを減らす活動にどのくらい取り組んでいるか聞いたところ、「積極的に取り組んでいる」(12.0%)と「ある程度取り組んでいる」(64.0%)の2つを合わせた《取り組んでいる》(76.0%)は7割台半ばとなっている。

(2) ごみを減らすために行っている取り組み

◇「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」が9割近く



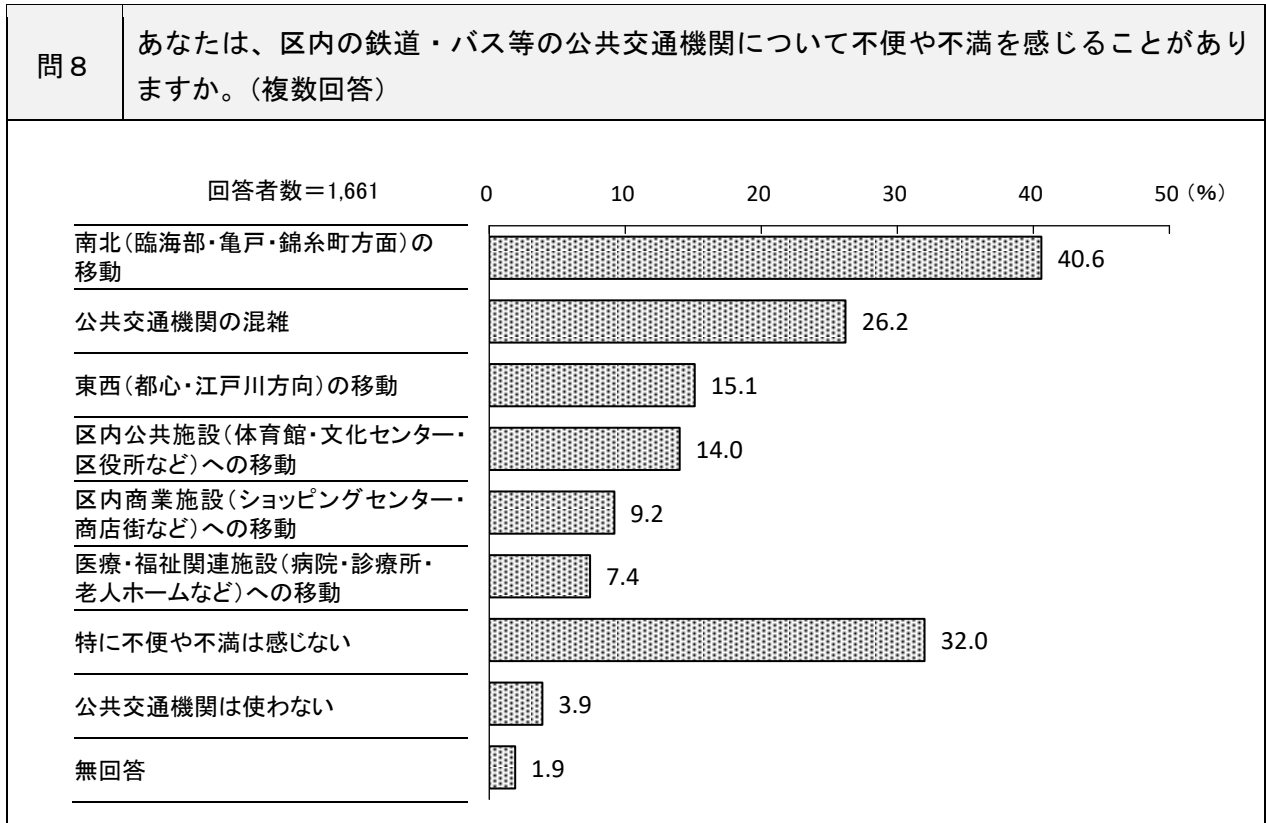
○ごみを減らす活動の取り組み内容を聞いたところ、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」(86.9%)が9割近くで最も多く、次いで「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」(63.2%)、「使い捨て商品は使わないようにして、詰め替え製品やリターナブルびんを利用している」(46.6%)と続いている。

第3章
調査結果の概要
3 ごみ・リサイクル

4 交通

(1) 区内の公共交通機関で不便や不満を感じること

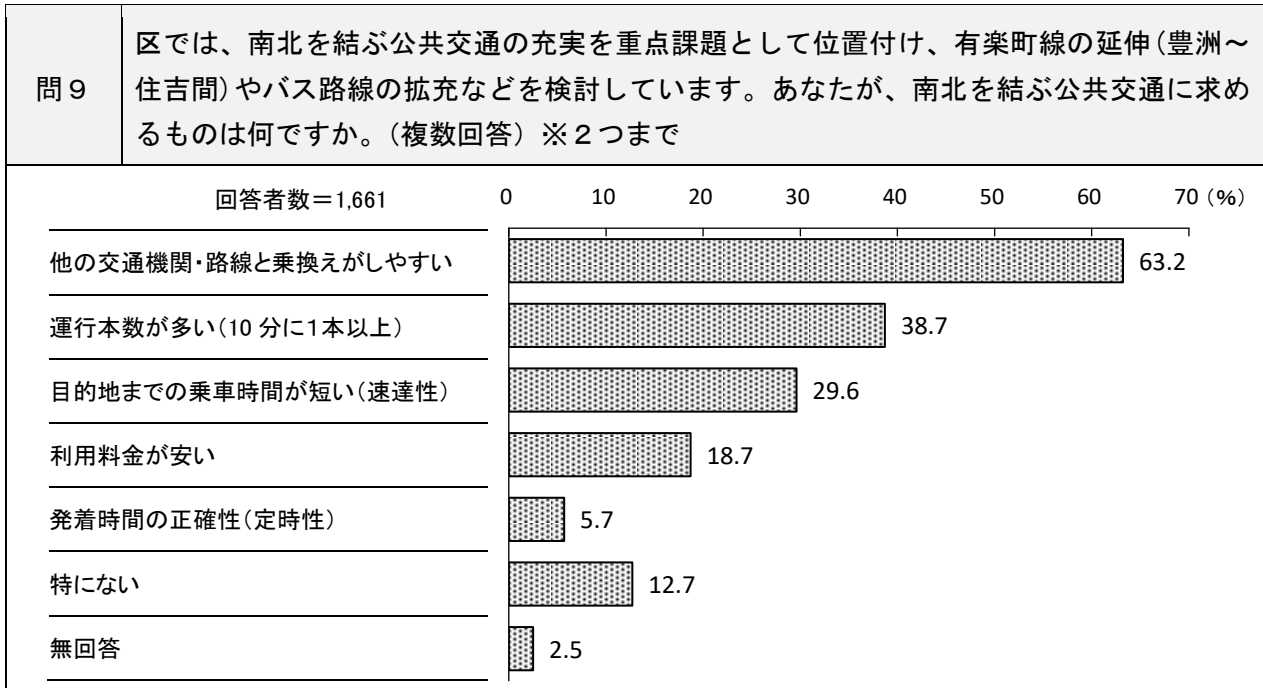
◇「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」がほぼ4割



○区内の鉄道・バス等の公共交通機関について不便や不満を感じることを聞いたところ、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」（40.6%）がほぼ4割で最も多く、次いで「公共交通機関の混雑」（26.2%）、「東西（都心・江戸川方向）の移動」（15.1%）と続いている。一方、「特に不便や不満は感じない」（32.0%）は3割を超えている。

(2) 南北を結ぶ公共交通に求めるもの

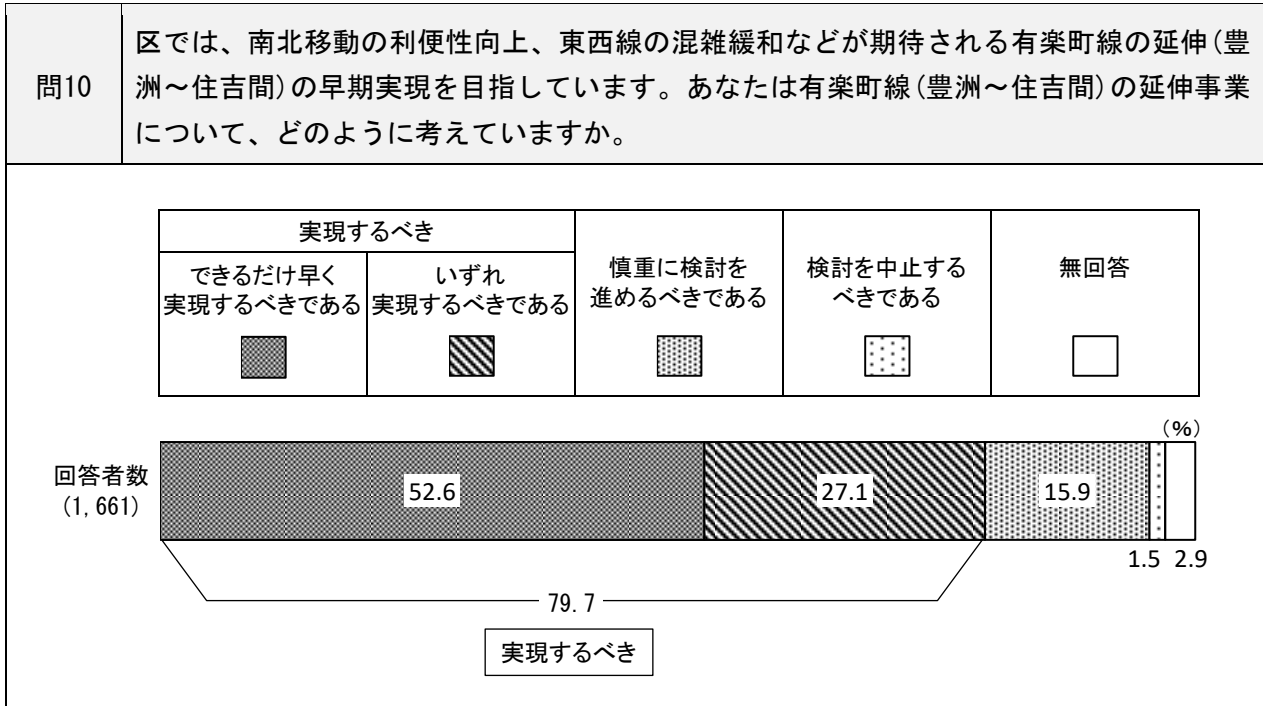
◇「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」が6割を超える



○南北を結ぶ公共交通に求めるものを聞いたところ、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」(63.2%)が6割を超えて最も多く、次いで「運行本数が多い(10分に1本以上)」(38.7%)、「目的地までの乗車時間が短い(速達性)」(29.6%)と続いている。

(3) 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え

◇「実現すべき」は8割

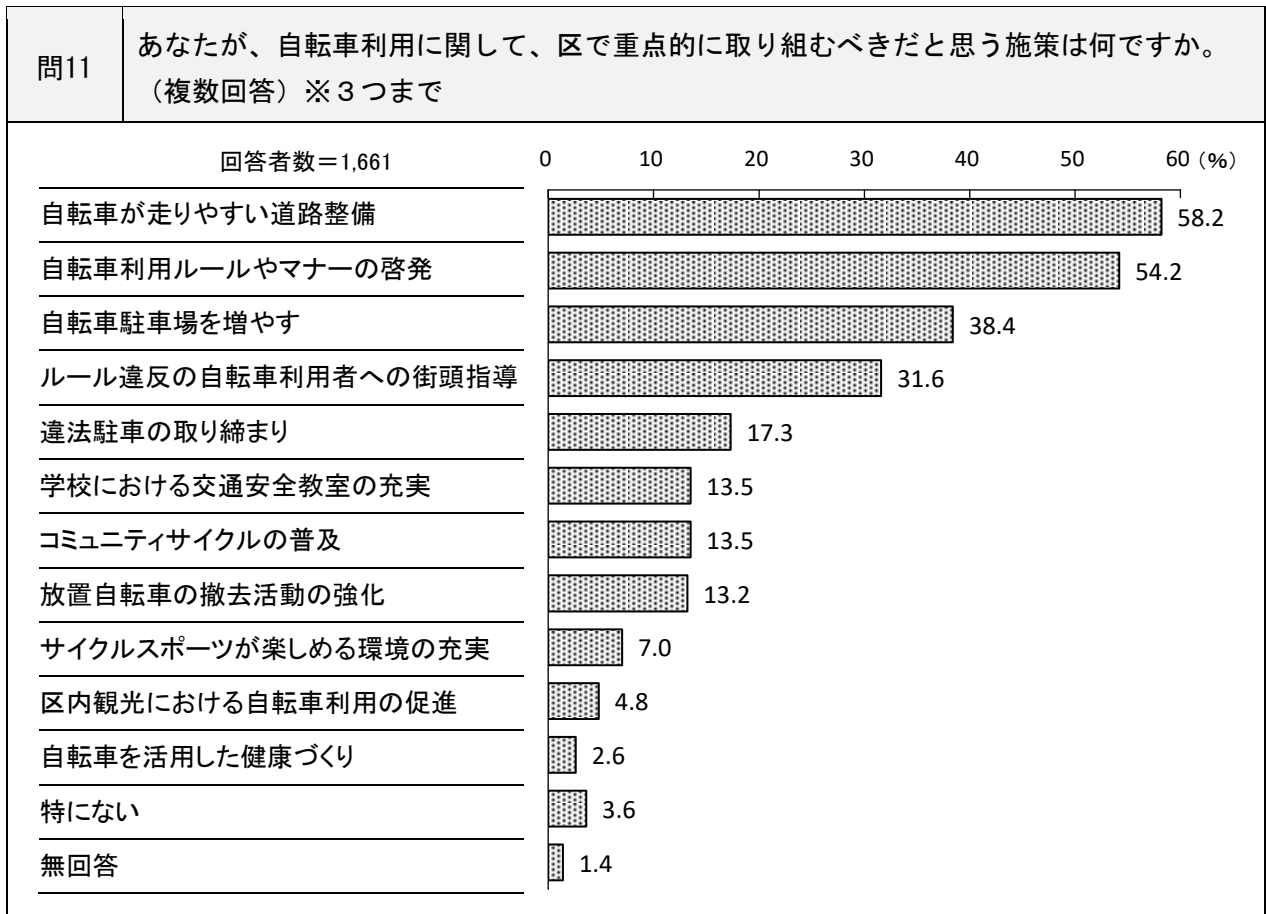


○有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考えを聞いたところ、「できるだけ早く実現するべきである」(52.6%)と「いずれ実現するべきである」(27.1%)の2つを合わせた「実現すべき」(79.7%)が8割となっている。また、「慎重に検討を進めるべきである」(15.9%)は1割台半ばとなっている。

(4) 自転車利用について区が取り組むべき施策

新規

◇「自転車が走りやすい道路整備」が6割近く

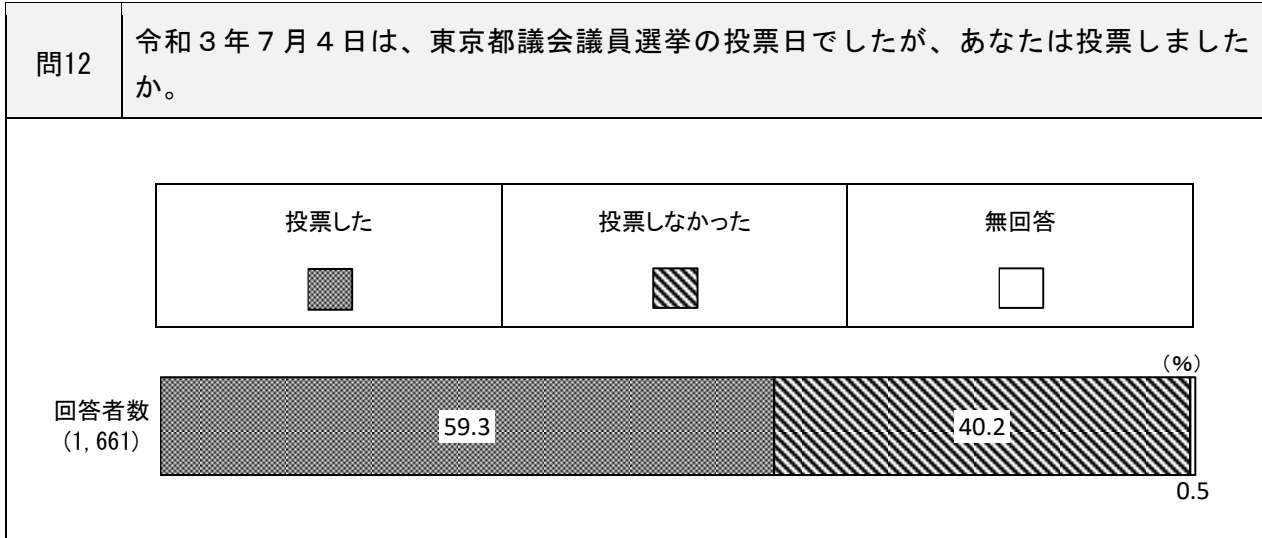


○自転車利用に関して区で重点的に取り組むべきだと思う施策について聞いたところ、「自転車が走りやすい道路整備」(58.2%)が6割近くで最も多く、次いで「自転車利用ルールやマナーの啓発」(54.2%)、「自転車駐車を増やす」(38.4%)と続いている。

5 選挙

(1) 東京都議会議員選挙の投票の有無

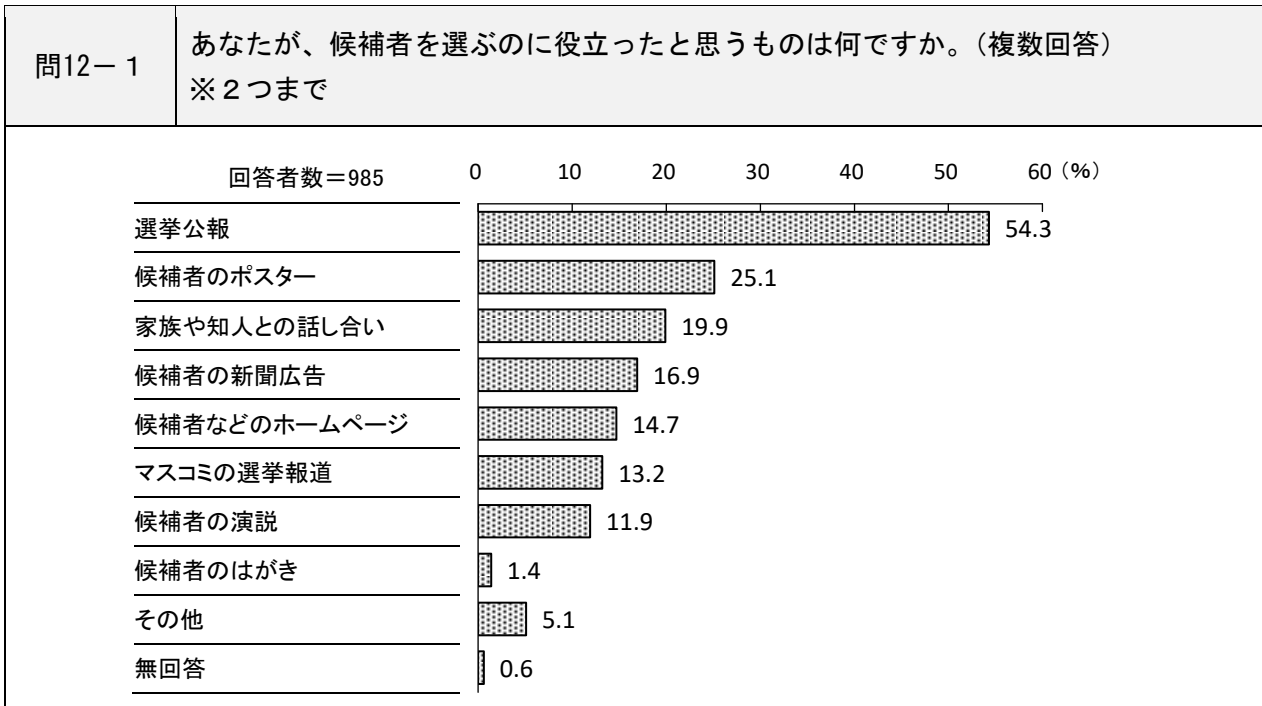
◇「投票した」がほぼ6割



○令和3年7月4日の東京都議会議員選挙に投票したかを聞いたところ、「投票した」(59.3%)はほぼ6割となっている。なお、実際の東京都議会議員選挙の江東区の投票率は43.89%であった。

(2) 候補者を選ぶのに役立ったと思うもの

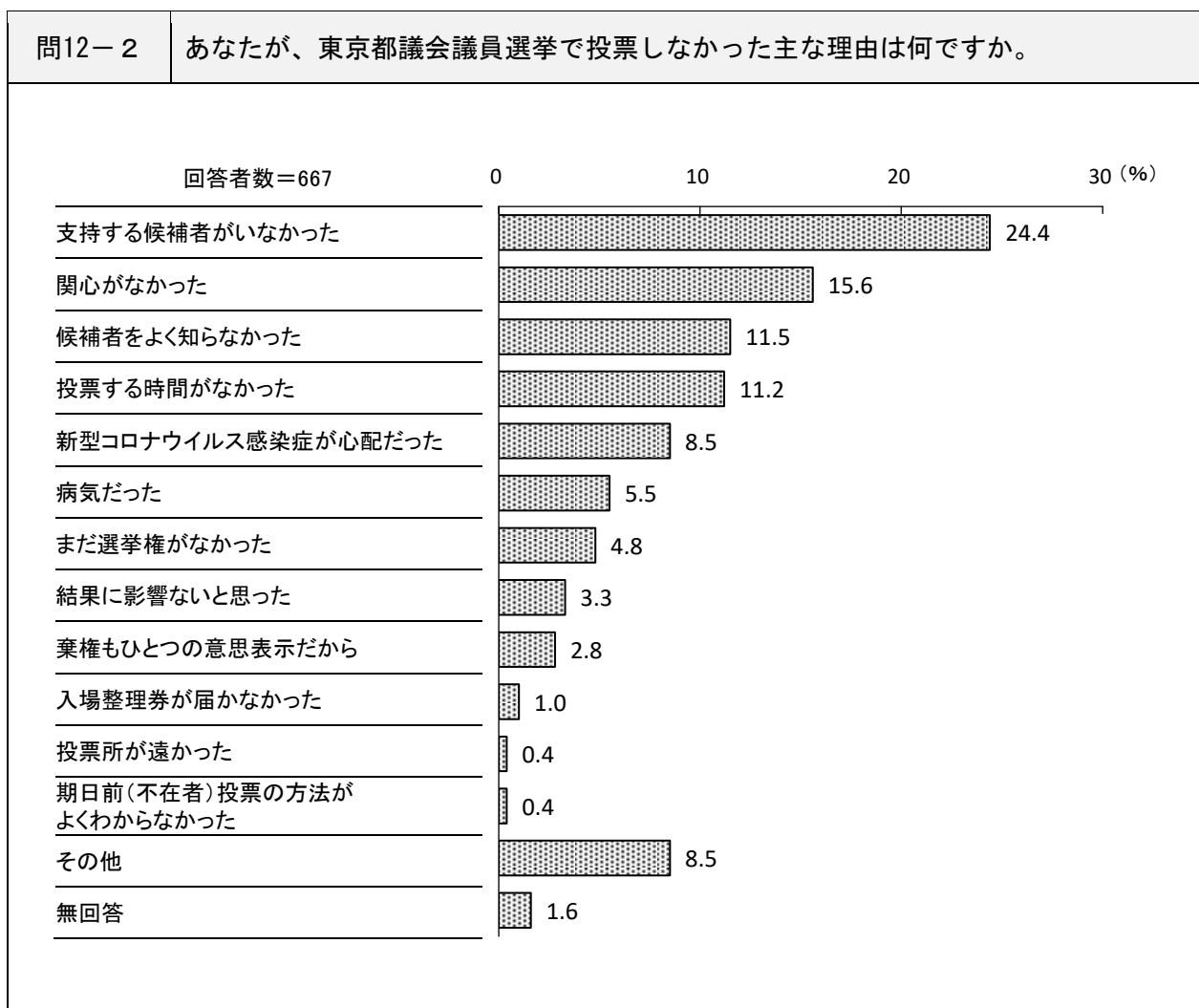
◇「選挙公報」が5割台半ば



○令和3年7月に行われた東京都議会議員選挙に「投票した」と答えた方(985人)に、候補者を選ぶのに役立ったと思うものは何か聞いたところ、「選挙公報」(54.3%)が5割台半ばで最も多く、次いで「候補者のポスター」(25.1%)、「家族や知人との話し合い」(19.9%)と続いている。

(3) 投票しなかった理由

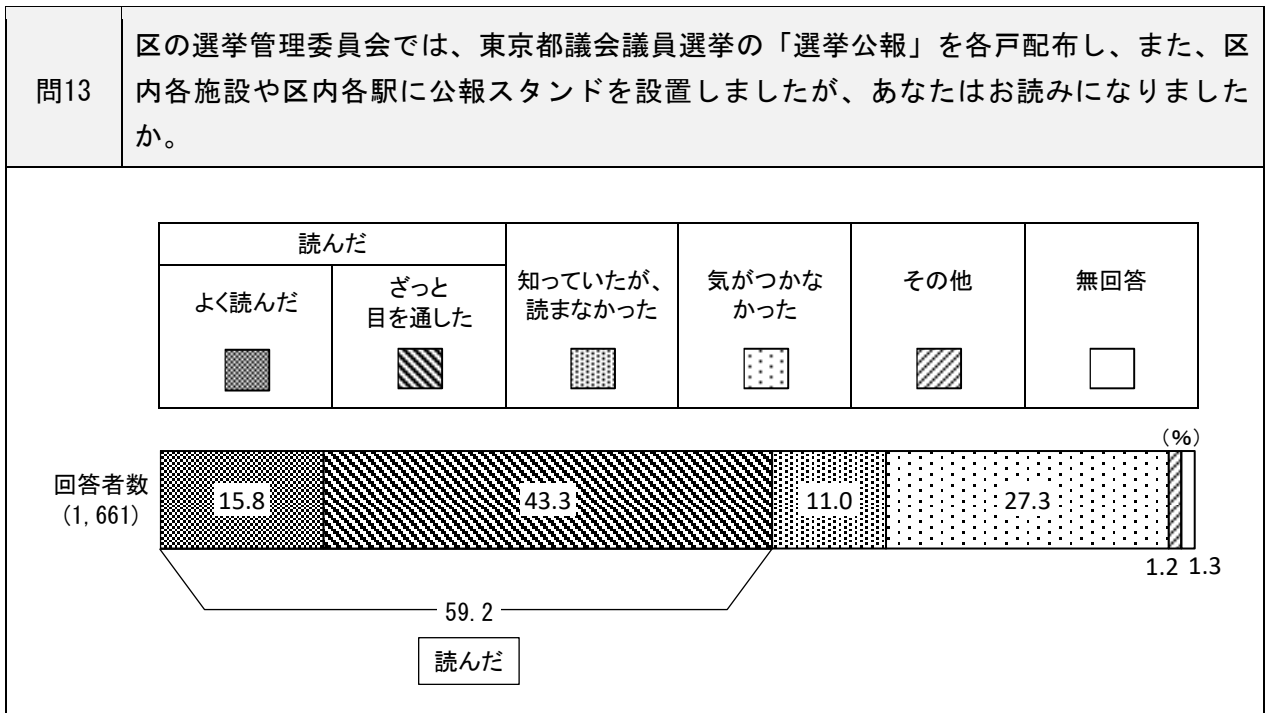
◇「支持する候補者がいなかった」が2割台半ば



○令和3年7月に行われた東京都議会議員選挙に「投票しなかった」と答えた方(667人)に、その理由を聞いたところ、「支持する候補者がいなかった」(24.4%)が2割台半ばで最も多く、次いで「関心がなかった」(15.6%)、「候補者をよく知らなかった」(11.5%)、「投票する時間がなかった」(11.2%)と続いている。

(4) 「選挙公報」の閲読状況

◇「読んだ」はほぼ6割

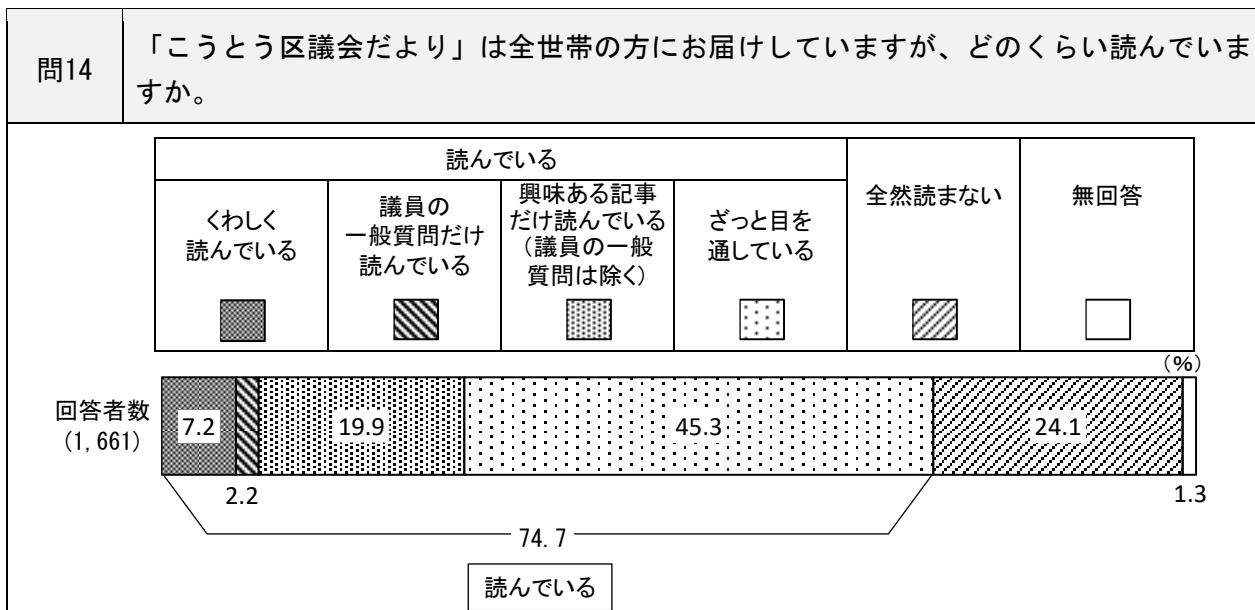


○東京都議会議員選挙の「選挙公報」を読んだか聞いたところ、「よく読んだ」(15.8%)と「ざっと目を通した」(43.3%)の2つを合わせた「読んだ」(59.2%)はほぼ6割となっている。一方、「知っていたが、読まなかった」(11.0%)は1割を超え、「気がつかなかった」(27.3%)は3割近くとなっている。

6 区議会

(1) 「こうとう区議会だより」の閲読状況

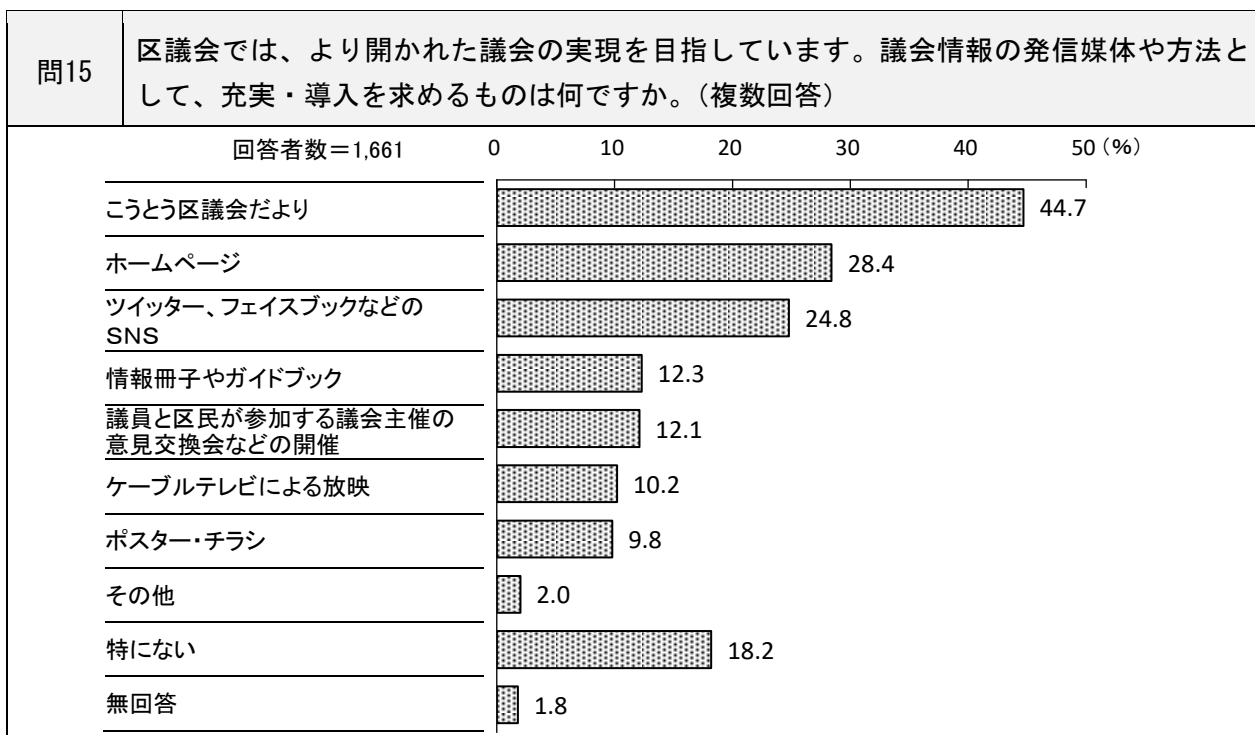
◇「読んでいます」は7割台半ば



○「こうとう区議会だより」をどのくらい読んでいるか聞いたところ、「くわしく読んでいる」(7.2%)、「議員の一般質問だけ読んでいる」(2.2%)、「興味ある記事だけ読んでいる(議員の一般質問は除く)」(19.9%)、「ざっと目を通している」(45.3%)の4つを合わせた「読んでいます」(74.7%)が7割台半ばとなっている。

(2) 充実・導入してほしい議会情報の発信媒体

◇「こうとう区議会だより」が4割台半ば

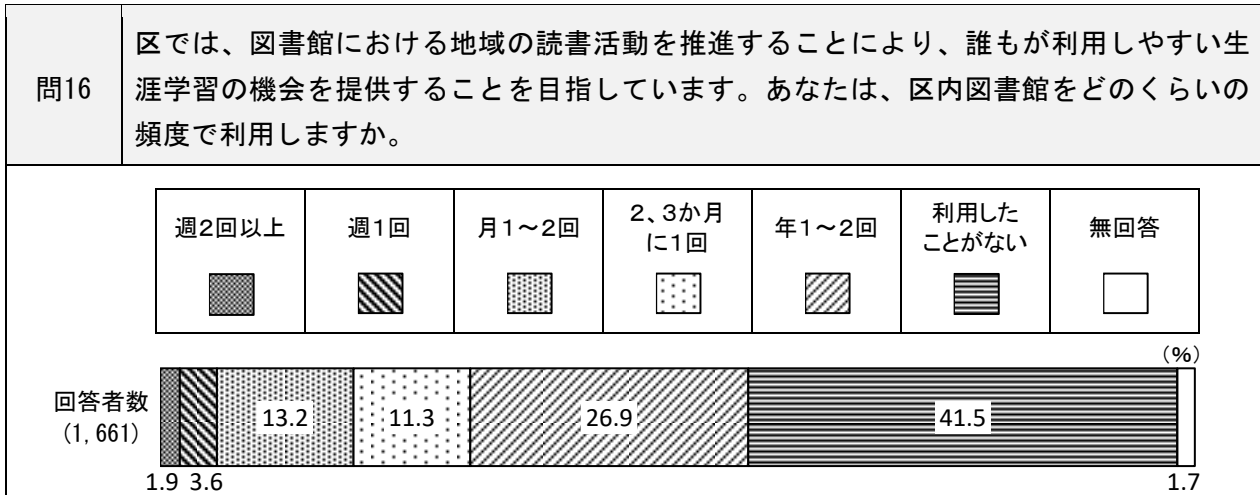


○充実・導入してほしい議会情報の発信媒体を聞いたところ、「こうとう区議会だより」(44.7%)が4割台半ばで最も多く、次いで「ホームページ」(28.4%)、「ツイッター、フェイスブックなどのSNS」(24.8%)と続いている。

7 図書館

(1) 区内図書館の利用頻度

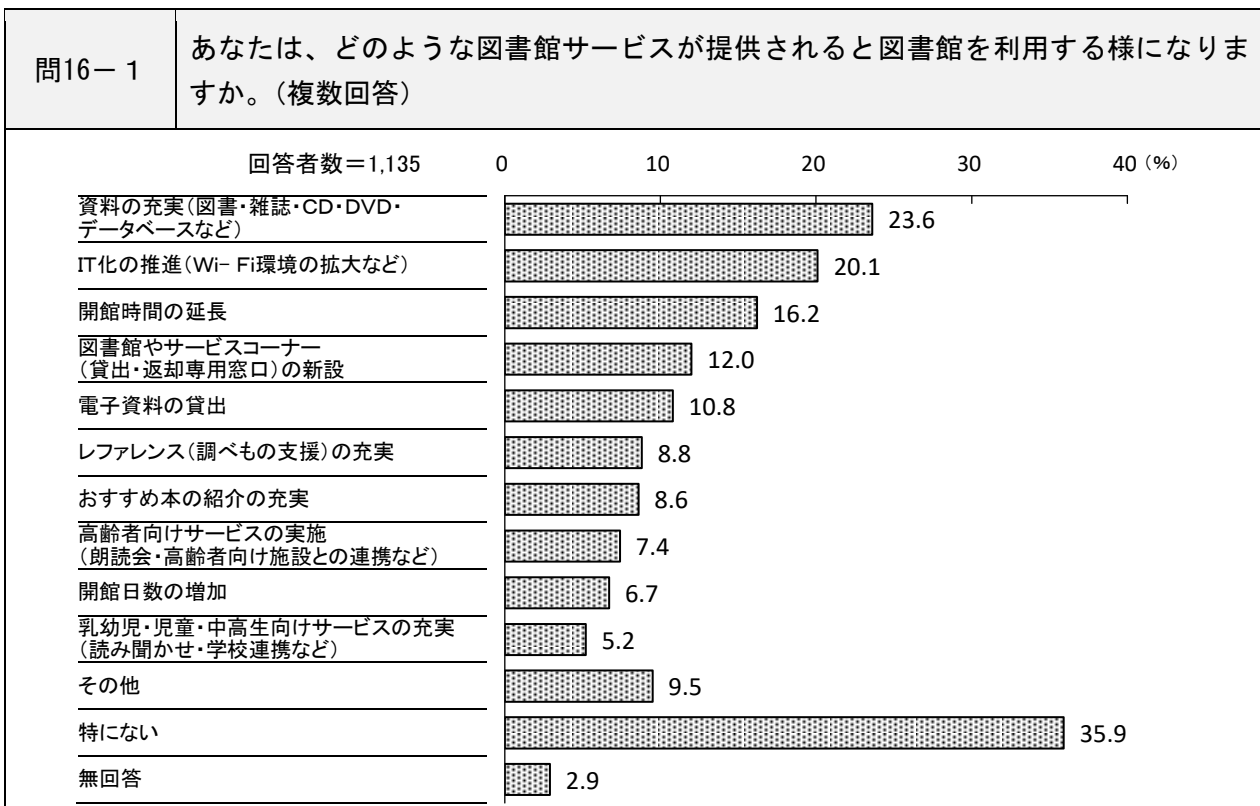
◇「年1～2回」が3割近く



○区内図書館の利用頻度を聞いたところ、「年1～2回」(26.9%)が3割近くとなっている。一方、「利用したことがない」(41.5%)は4割を超えている。

(2) 図書館サービスへの要望

◇「資料の充実(図書・雑誌・CD・DVD・データベースなど)」が2割を超える



○区内図書館の利用頻度を、「年1～2回」か「利用したことがない」と答えた方(1,135人)に、どのようなサービスが提供されると図書館を利用するか聞いたところ、「資料の充実(図書・雑誌・CD・DVD・データベースなど)」(23.6%)が2割を超えて最も多く、次いで「IT化の推進(Wi-Fi環境の拡大など)」(20.1%)、「開館時間の延長」(16.2%)と続いている。

8 江東区ブランディング戦略

(1) 区のロゴマークやブランドコンセプトの認知状況

◇「知っている」が5割を超える

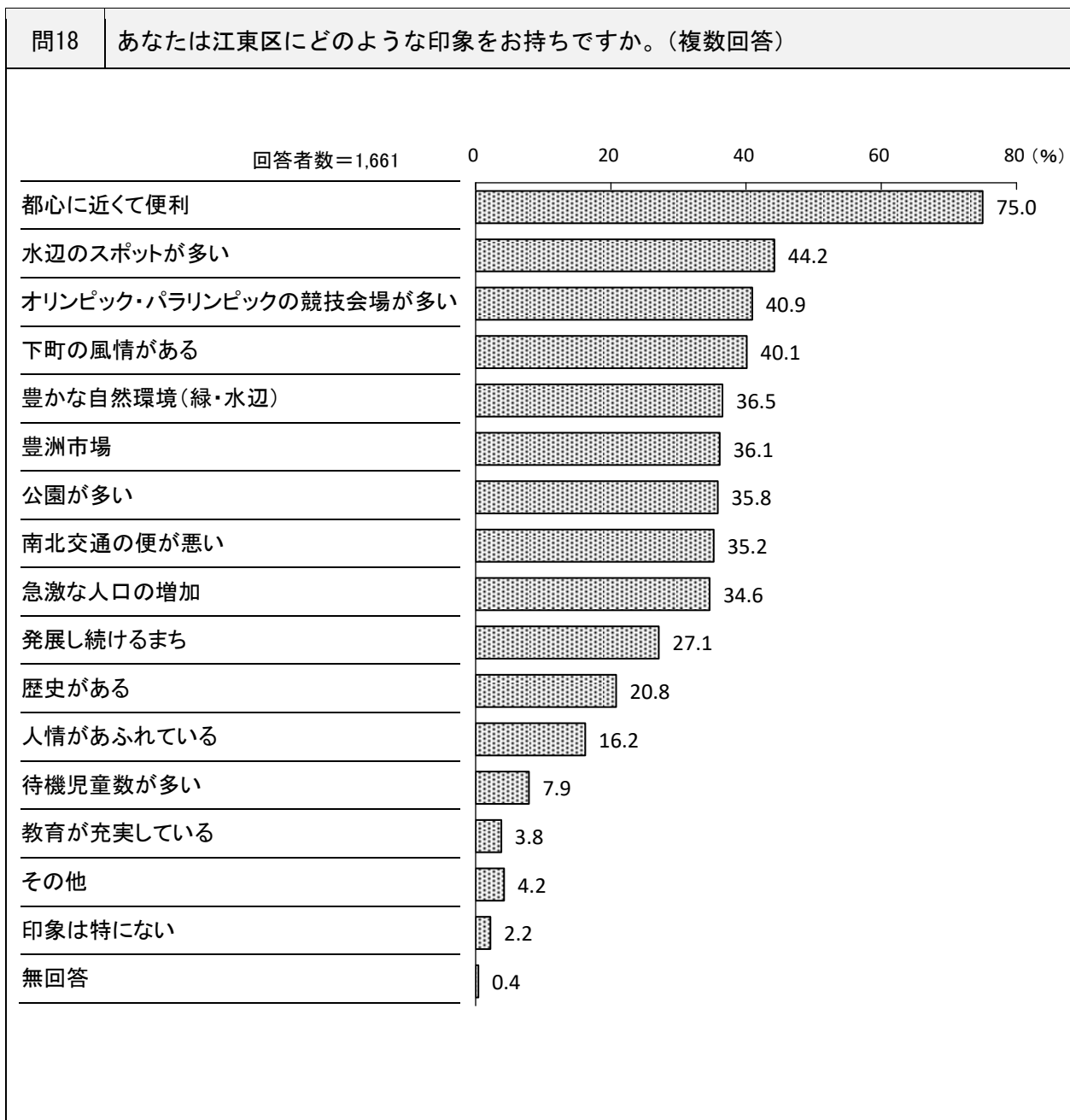


○区のロゴマークやブランドコンセプトを知っているか聞いたところ、「知っている」(52.1%)は5割を超え、「知らない」(46.8%)が5割近くとなっている。



(2) 区に持っている印象

◇「都心に近くて便利」が7割台半ば

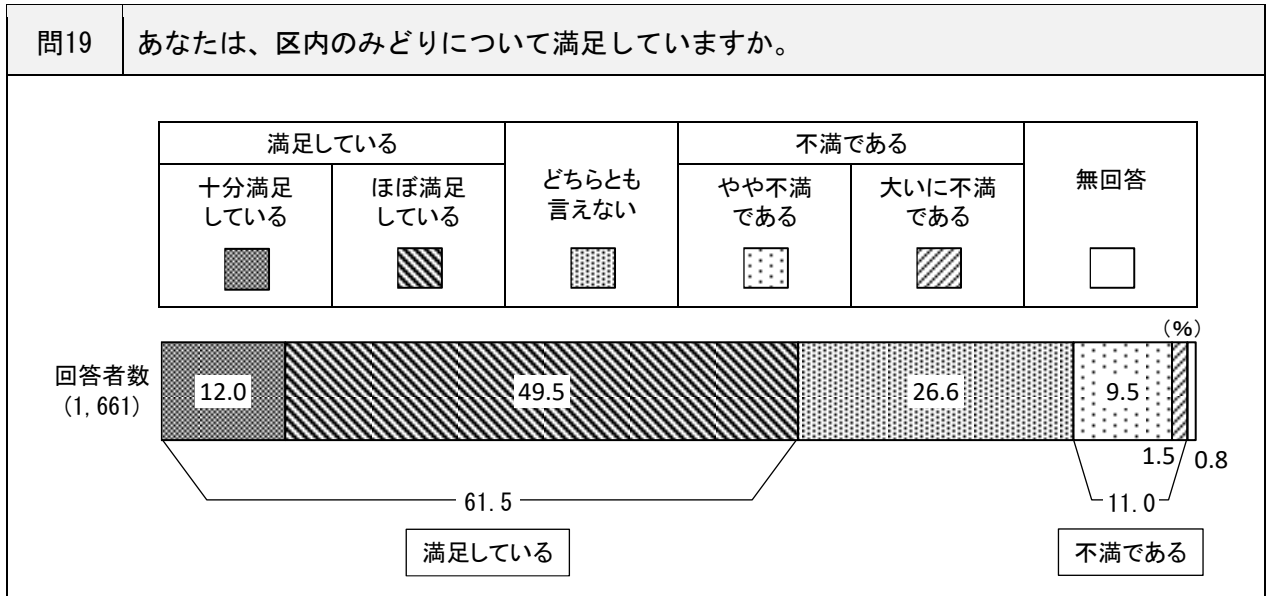


○江東区にどのような印象を持っているか聞いたところ、「都心に近くて便利」(75.0%)が7割台半ばで最も多く、次いで「水辺のスポットが多い」(44.2%)、「オリンピック・パラリンピックの競技会場が多い」(40.9%)、「下町の風情がある」(40.1%)と続いている。

9 緑化推進

(1) 区内のみどりの満足度

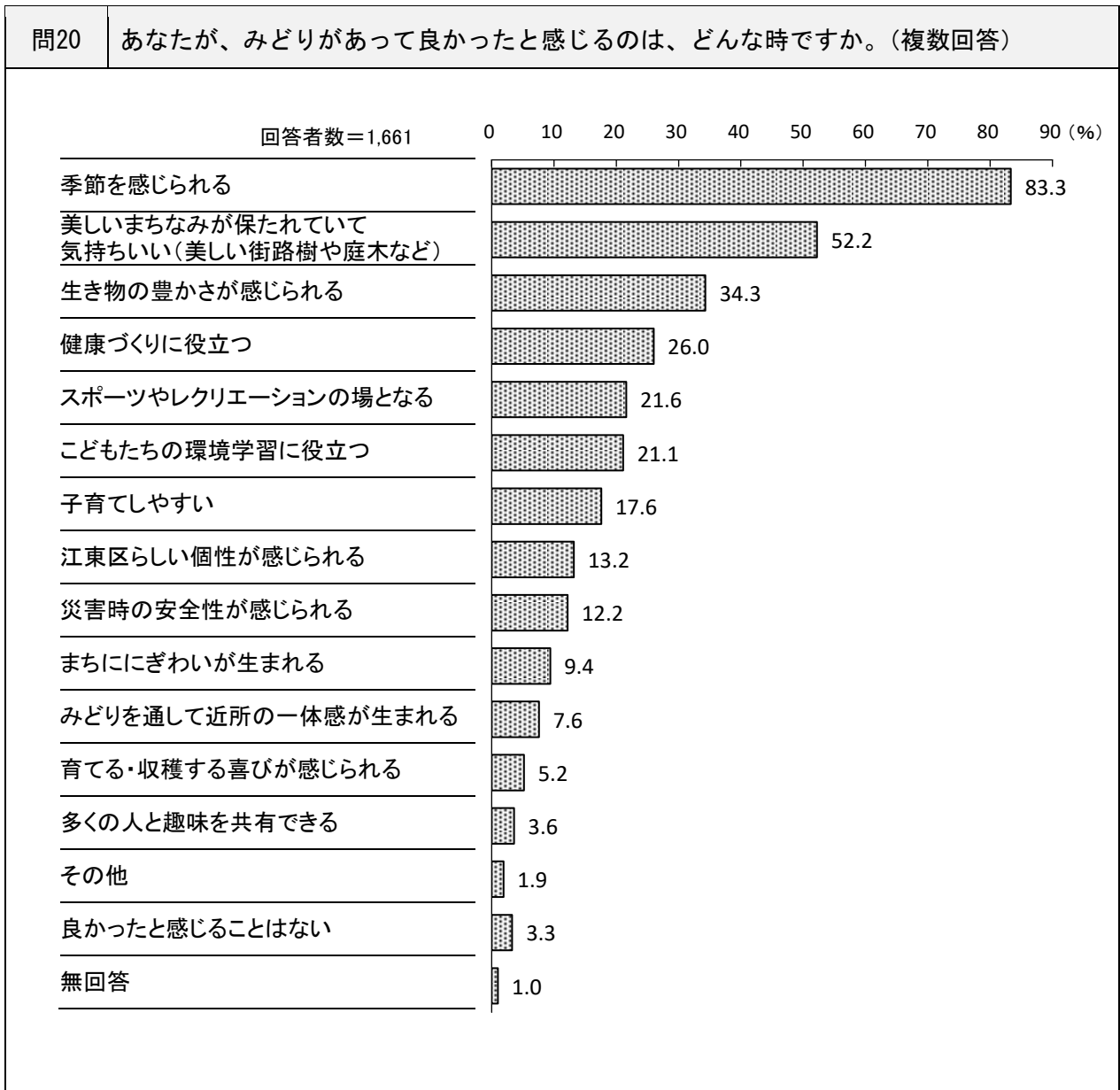
◇《満足している》が6割を超える



○区内のみどりについて満足しているか聞いたところ、「十分満足している」(12.0%)と「ほぼ満足している」(49.5%)の2つを合わせた《満足している》(61.5%)は6割を超えている。一方、「やや不満である」(9.5%)と「大いに不満である」(1.5%)の2つを合わせた《不満である》(11.0%)は1割を超えている。

(2) どんな時に、みどりがあって良かったと感じるか

◇「季節を感じられる」が8割を超える

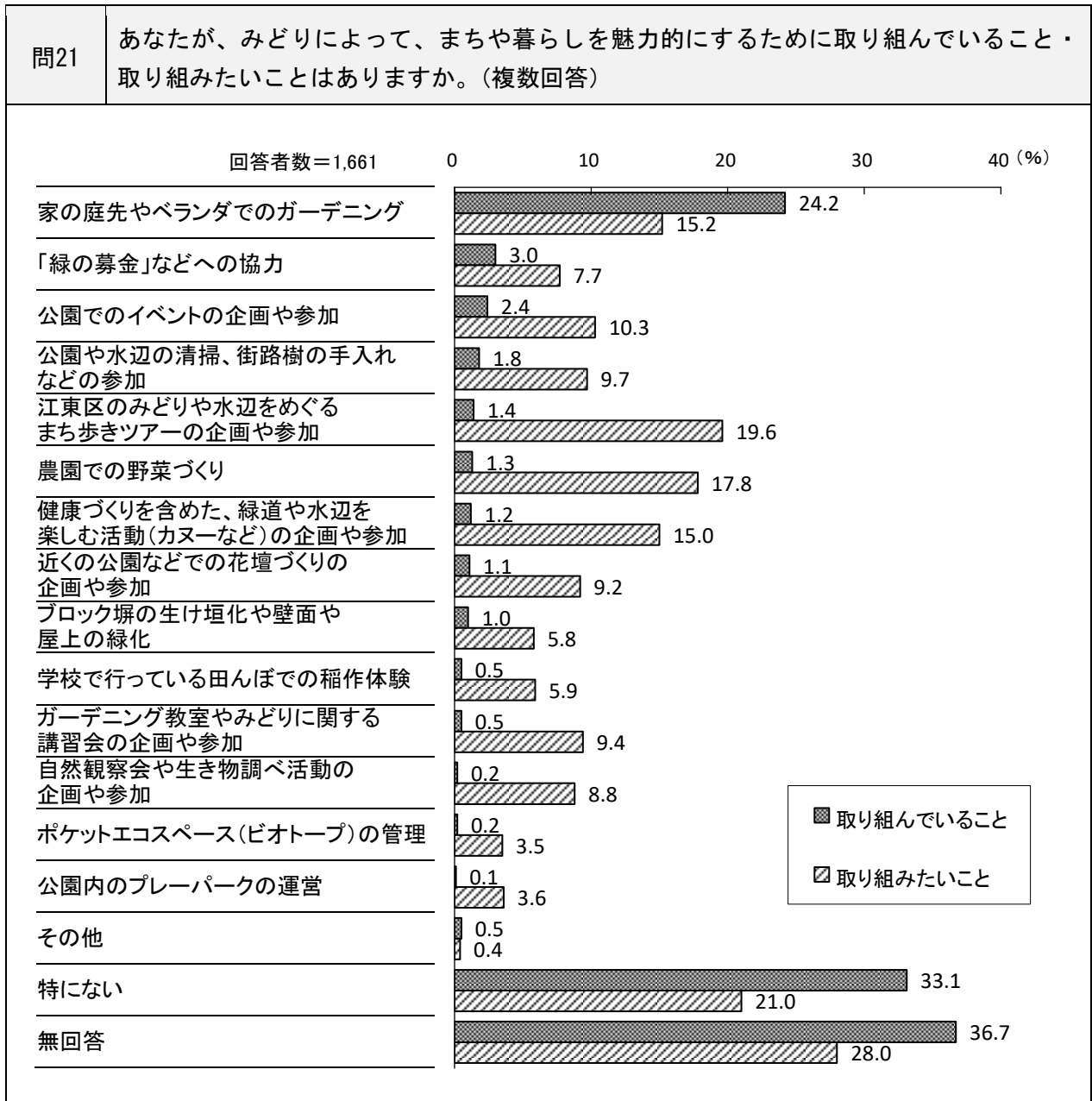


○みどりがあって良かったと感じるのは、どんな時か聞いたところ、「季節を感じられる」(83.3%)が8割を超えて最も多く、次いで「美しいまちなみが保たれていて気持ちいい(美しい街路樹や庭木など)」(52.2%)、「生き物の豊かさが感じられる」(34.3%)と続いている。

(3) 取り組んでいる、または今後取り組みたいと思うみどりに関する事業

◇取り組んでいることでは、「家の庭先やベランダでのガーデニング」が2割台半ば

◇取り組みたいことでは、「江東区のみどりや水辺をめぐるまち歩きツアーの企画や参加」が2割



○みどりによって、まちや暮らしを魅力的にするために取り組んでいること・取り組みたいことはあるか聞いたところ、取り組んでいることでは、「家の庭先やベランダでのガーデニング」(24.2%)が2割台半ばで最も多く、次いで「『緑の募金』などへの協力」(3.0%)、「公園でのイベントの企画や参加」(2.4%)と続いている。一方、取り組みたいことでは、「江東区のみどりや水辺をめぐるまち歩きツアーの企画や参加」(19.6%)が2割で最も多く、次いで「農園での野菜づくり」(17.8%)、「家の庭先やベランダでのガーデニング」(15.2%)、「健康づくりを含めた、緑道や水辺を楽しむ活動(カヌーなど)の企画や参加」(15.0%)と続いている。

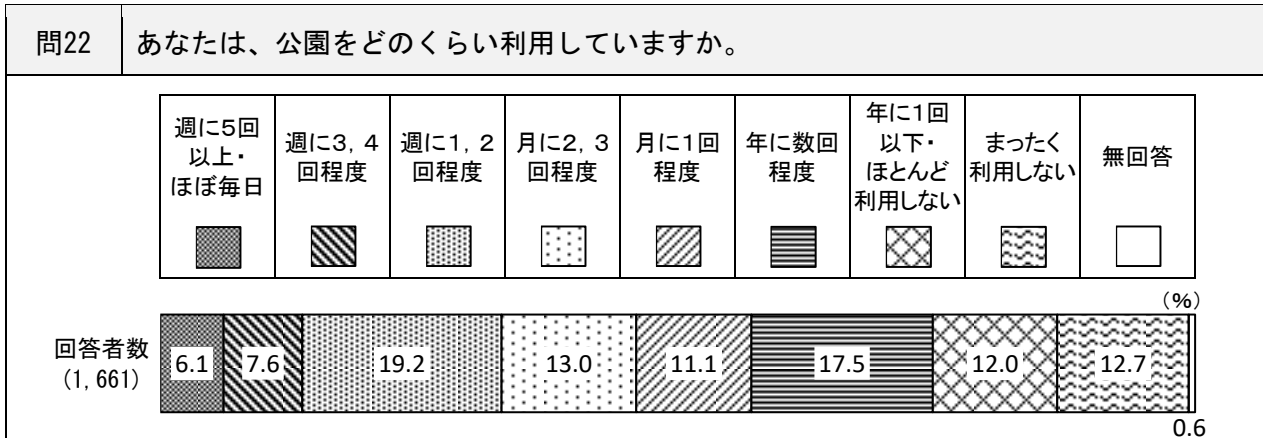
第3章
調査結果の概要
9 緑化推進

10 公園

(1) 公園の利用頻度

新規

◇「週に1, 2回程度」がほぼ2割

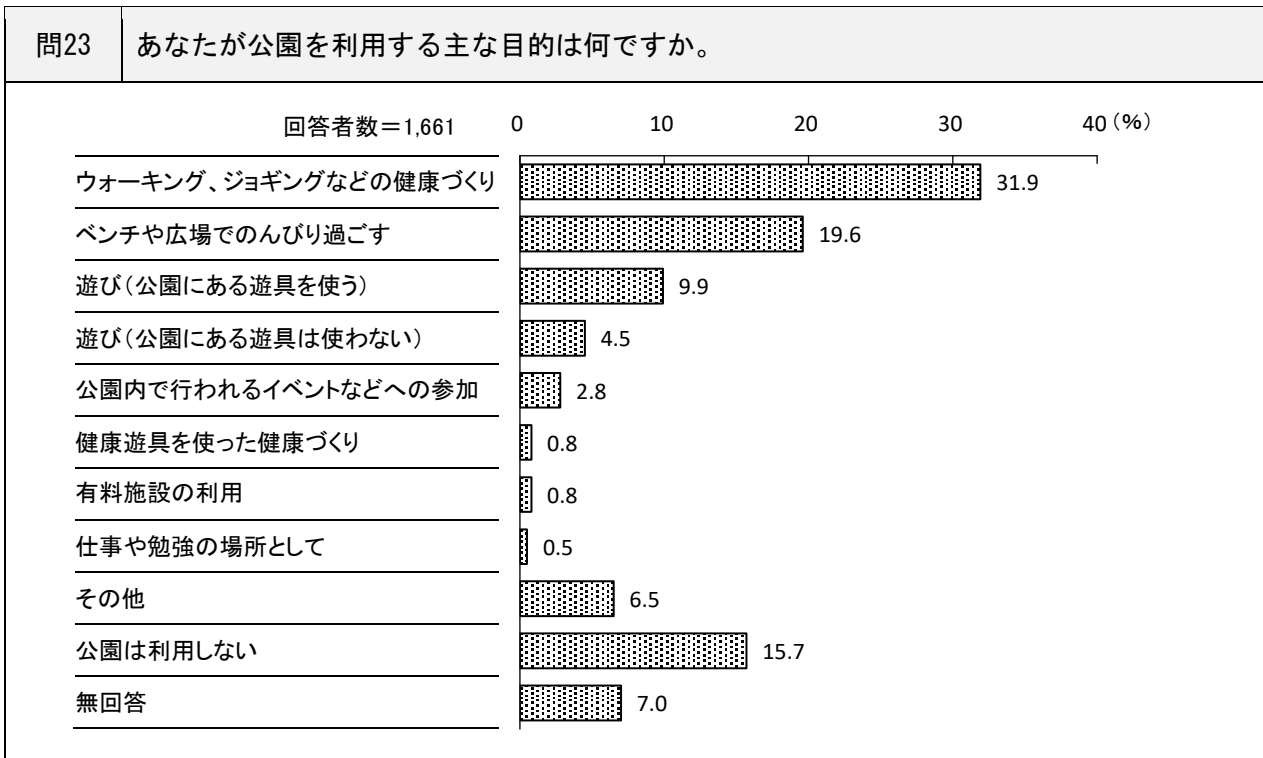


○公園の利用頻度を聞いたところ、「週に1, 2回程度」(19.2%)がほぼ2割で最も多く、「週に5回以上・ほぼ毎日」～「週に1, 2回程度」を合わせると3割を超えている。

(2) 公園を利用する主な目的

新規

◇「ウォーキング、ジョギングなどの健康づくり」が3割を超える

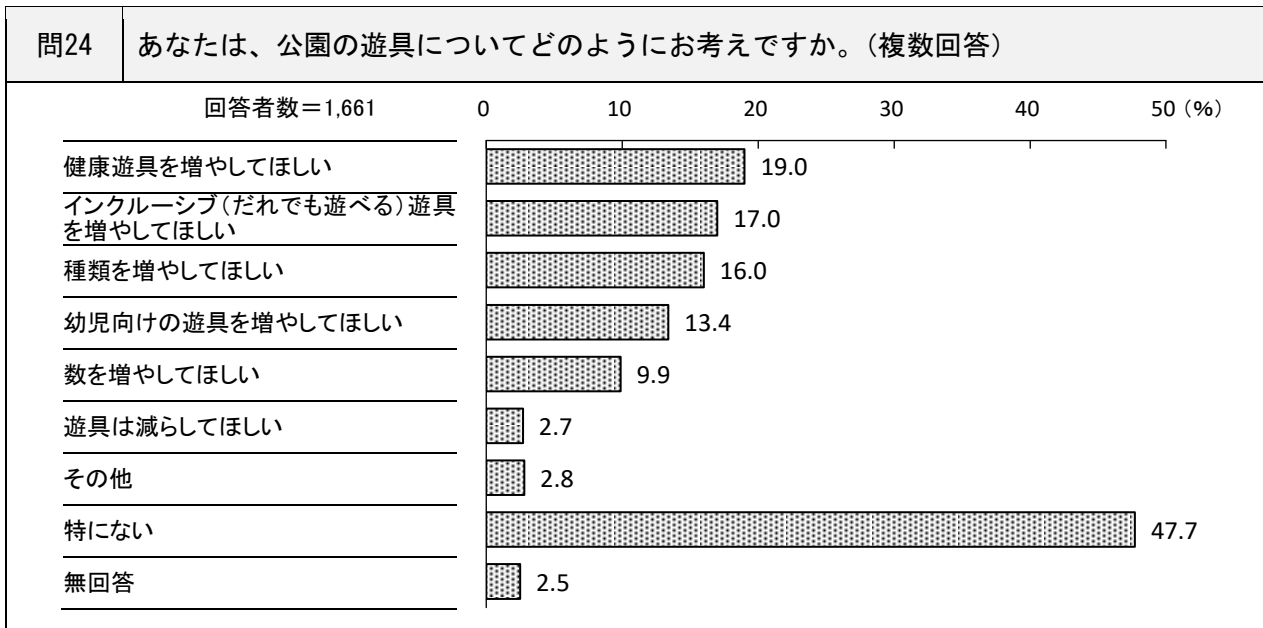


○公園を利用する主な目的を聞いたところ、「ウォーキング、ジョギングなどの健康づくり」(31.9%)が3割を超えて最も多く、次いで「ベンチや広場でのんびり過ごす」(19.6%)、「遊び(公園にある遊具を使う)」(9.9%)と続いている。

(3) 公園の遊具についての考え

新規

◇「健康遊具を増やしてほしい」がほぼ2割

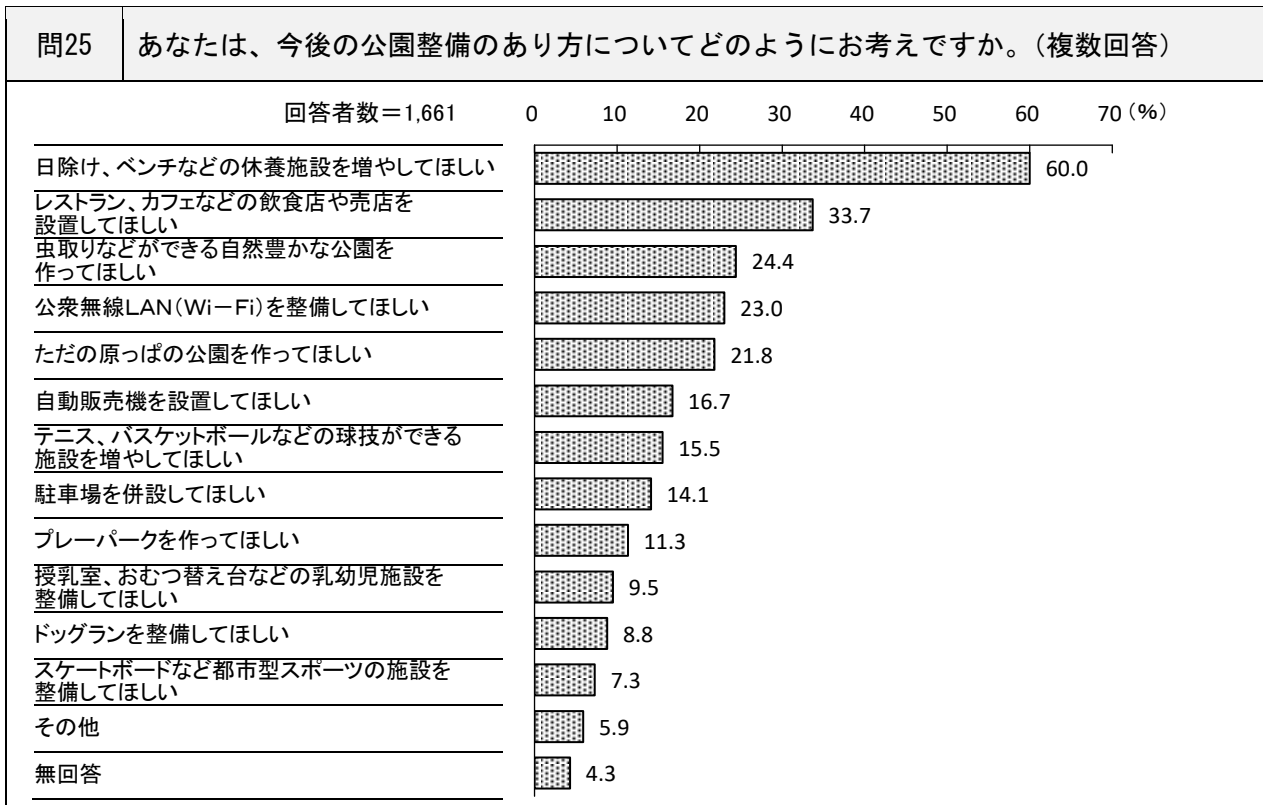


○公園の遊具について聞いたところ、「健康遊具を増やしてほしい」(19.0%)がほぼ2割で最も多く、次いで「インクルーシブ(だれでも遊べる)遊具を増やしてほしい」(17.0%)、「種類を増やしてほしい」(16.0%)と続いている。

(4) 公園整備のあり方についての考え

新規

◇「日除け、ベンチなどの休養施設を増やしてほしい」が6割

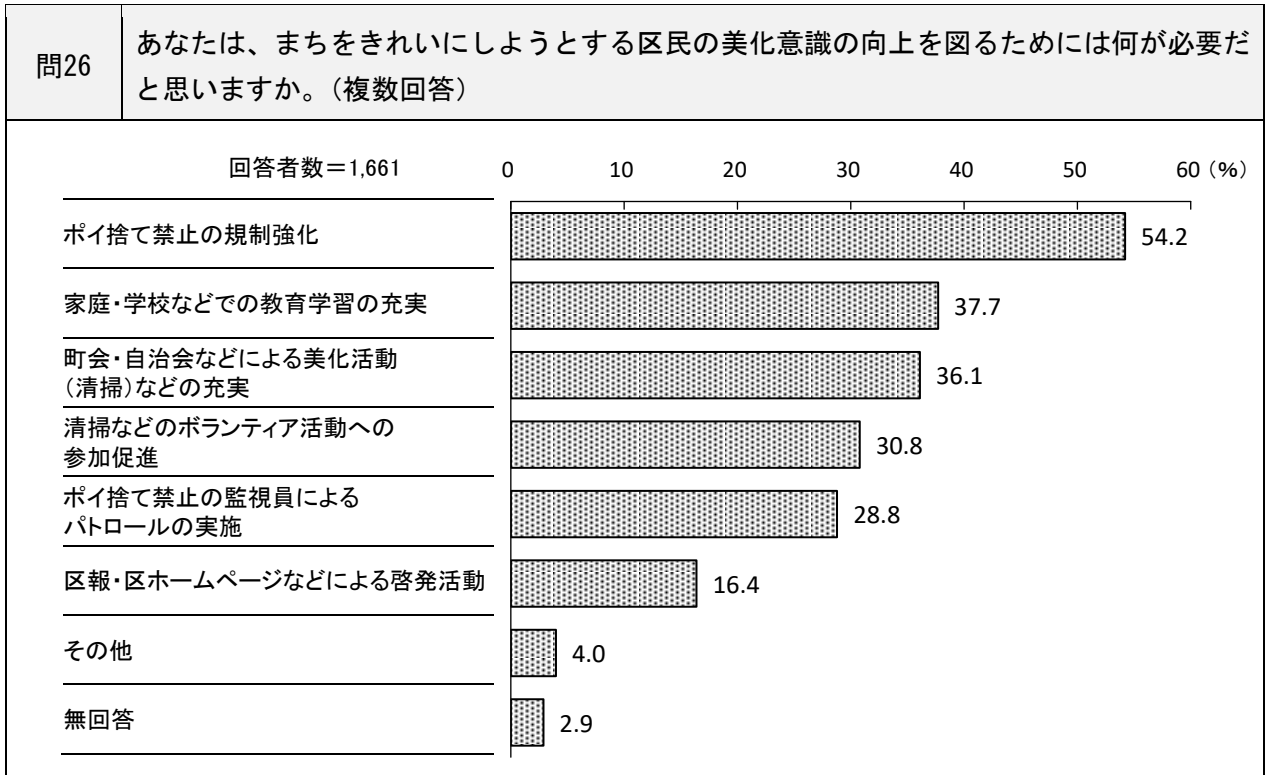


○今後の公園整備のあり方について聞いたところ、「日除け、ベンチなどの休養施設を増やしてほしい」(60.0%)が6割で最も多く、次いで「レストラン、カフェなどの飲食店や売店を設置してほしい」(33.7%)、「虫取りなどができる自然豊かな公園を作してほしい」(24.4%)と続いている。

11 環境美化

(1) 区民の環境美化意識の向上を図るために必要だと思うもの

◇「ポイ捨て禁止の規制強化」が5割台半ば

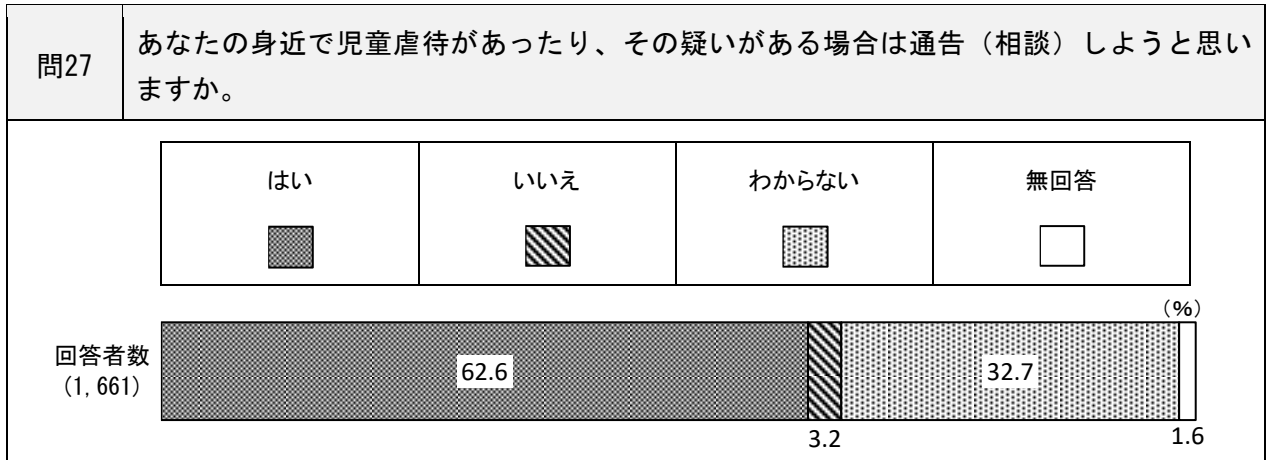


○区民の美化意識の向上を図るためには何が必要か聞いたところ、「ポイ捨て禁止の規制強化」(54.2%)が5割台半ばで最も多く、次いで「家庭・学校などでの教育学習の充実」(37.7%)、「町会・自治会などによる美化活動(清掃)などの充実」(36.1%)と続いている。

12 児童虐待

(1) 身近で児童虐待があった場合の通告（相談）の有無

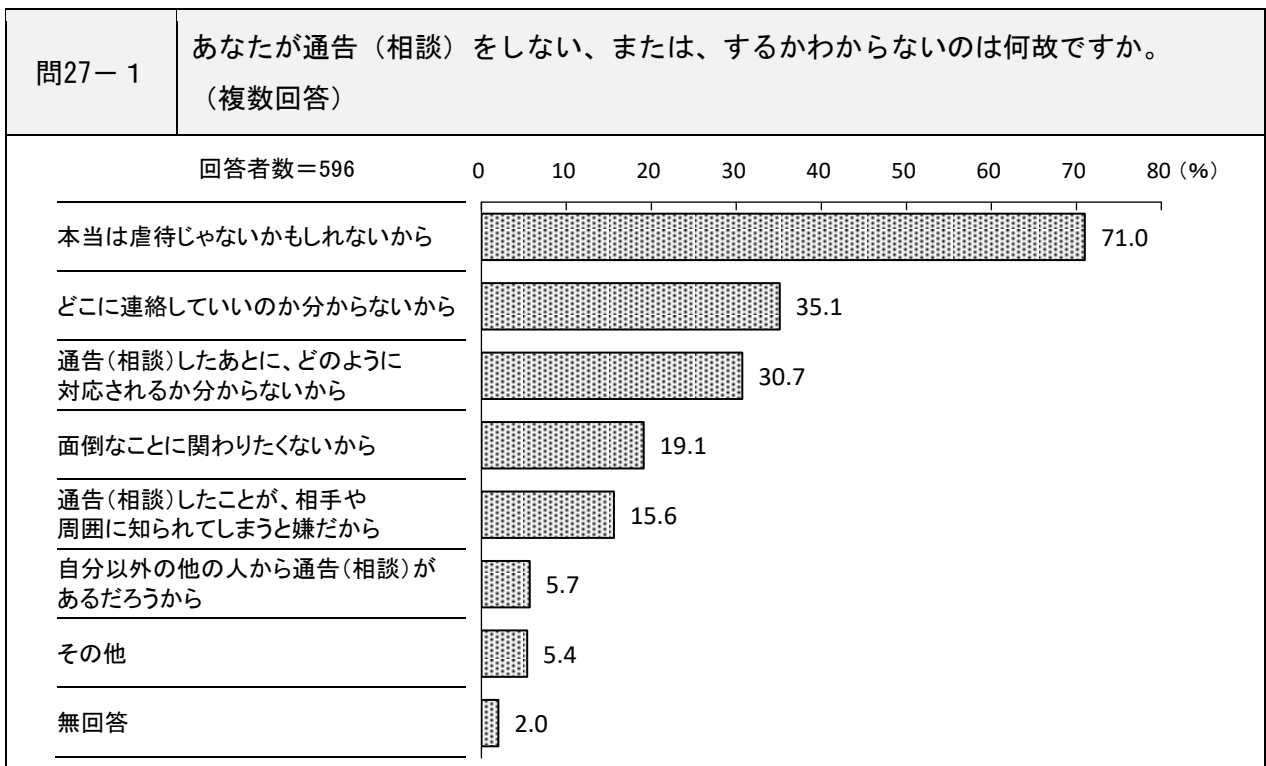
◇「通告（相談）する」が6割を超える



○身近で児童虐待があったり、その疑いがある場合は通告（相談）するか聞いたところ、「はい」（62.6%）が6割を超え、「いいえ」（3.2%）はわずかとなっている。また、「わからない」（32.7%）は3割を超えている。

(2) 通告（相談）をしない、または、するかわからない理由

◇「本当は虐待じゃないかもしれないから」が7割を超える

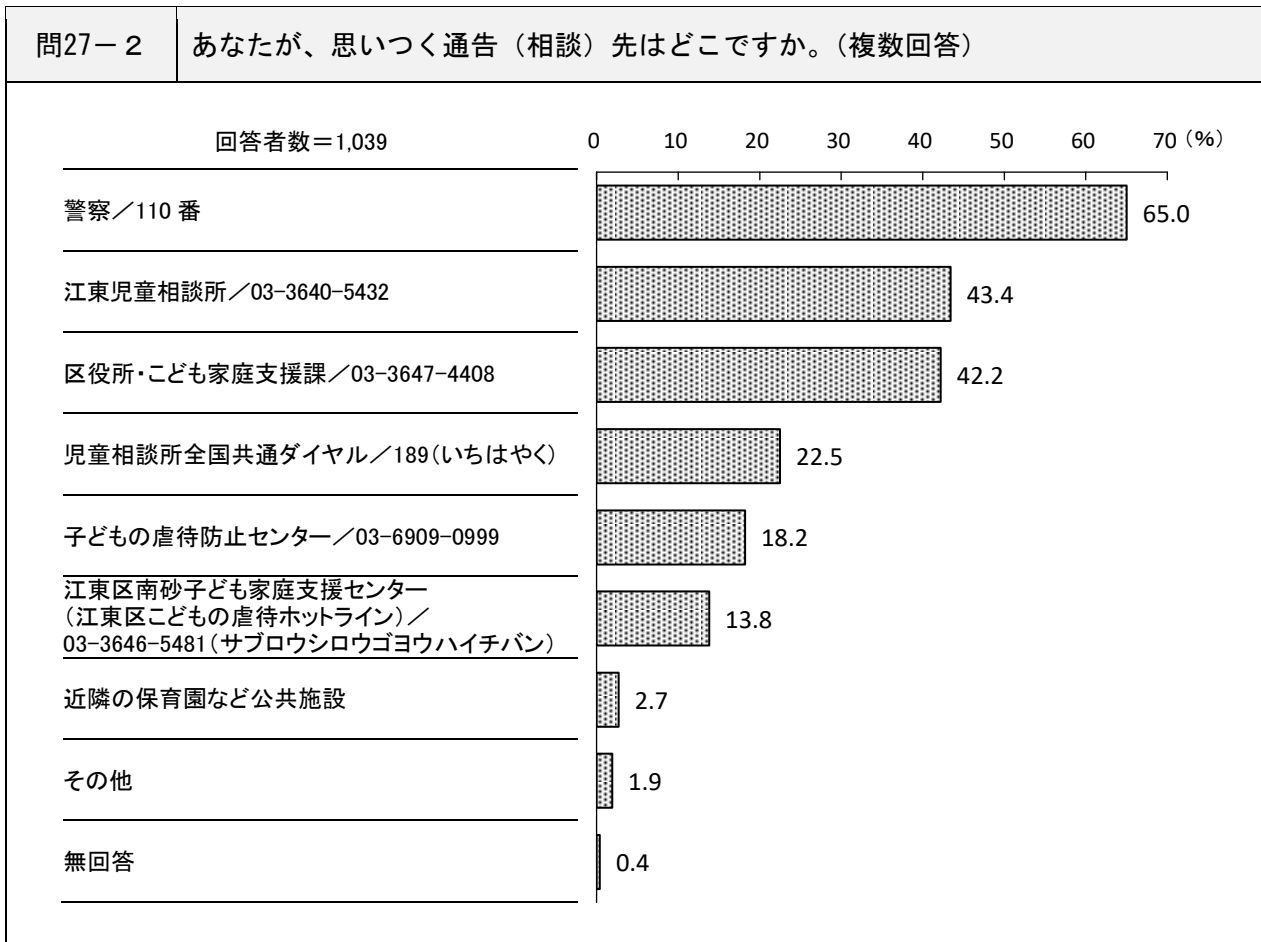


○身近で児童虐待があったり、その疑いがある場合に、通告（相談）をしない、または、するかわからないと答えた方（596人）に、その理由を聞いたところ、「本当は虐待じゃないかもしれないから」（71.0%）が7割を超えて最も多く、次いで「どこに連絡していいのかわからないから」（35.1%）、「通告（相談）したあとに、どのように対応されるかわからないから」（30.7%）と続いている。

第3章
調査結果の概要
12 児童虐待

(3) 思いつく通告（相談）先

◇「警察／110番」が6割台半ば

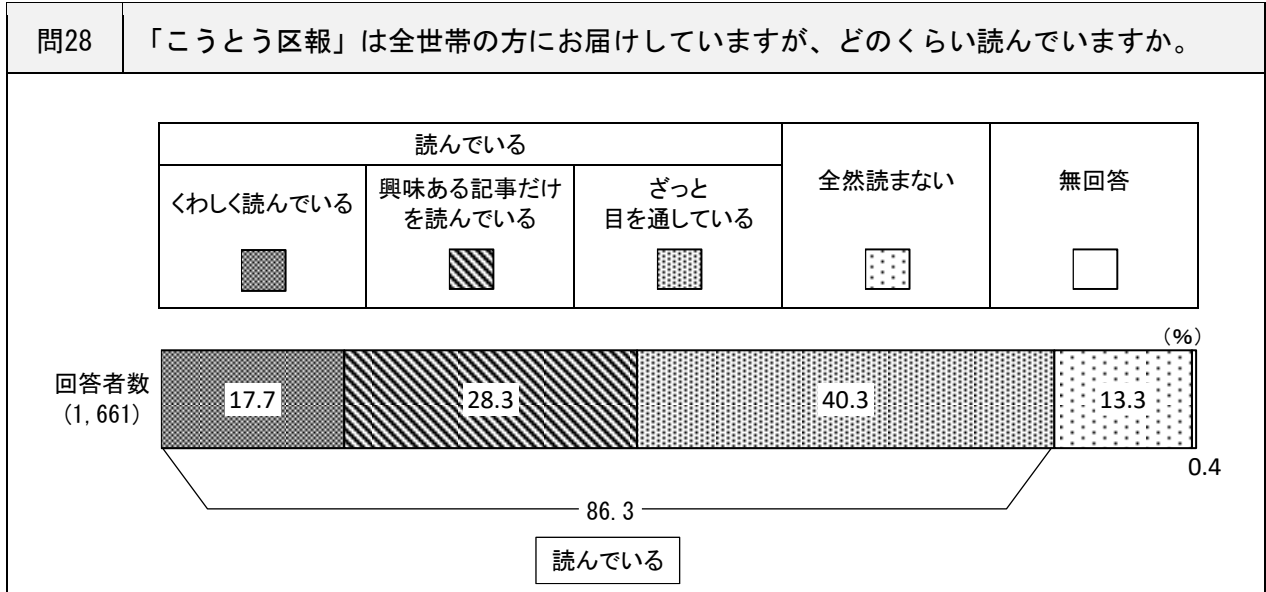


○身近で児童虐待があったり、その疑いがある場合に、通告（相談）をすると答えた方（1,039人）に、思いつく通告先を聞いたところ、「警察／110番」（65.0%）が6割台半ばで最も多く、次いで「江東児童相談所／03-3640-5432」（43.4%）、「区役所・こども家庭支援課／03-3647-4408」（42.2%）と続いている。

13 広報

(1) 「こうとう区報」の閲読状況

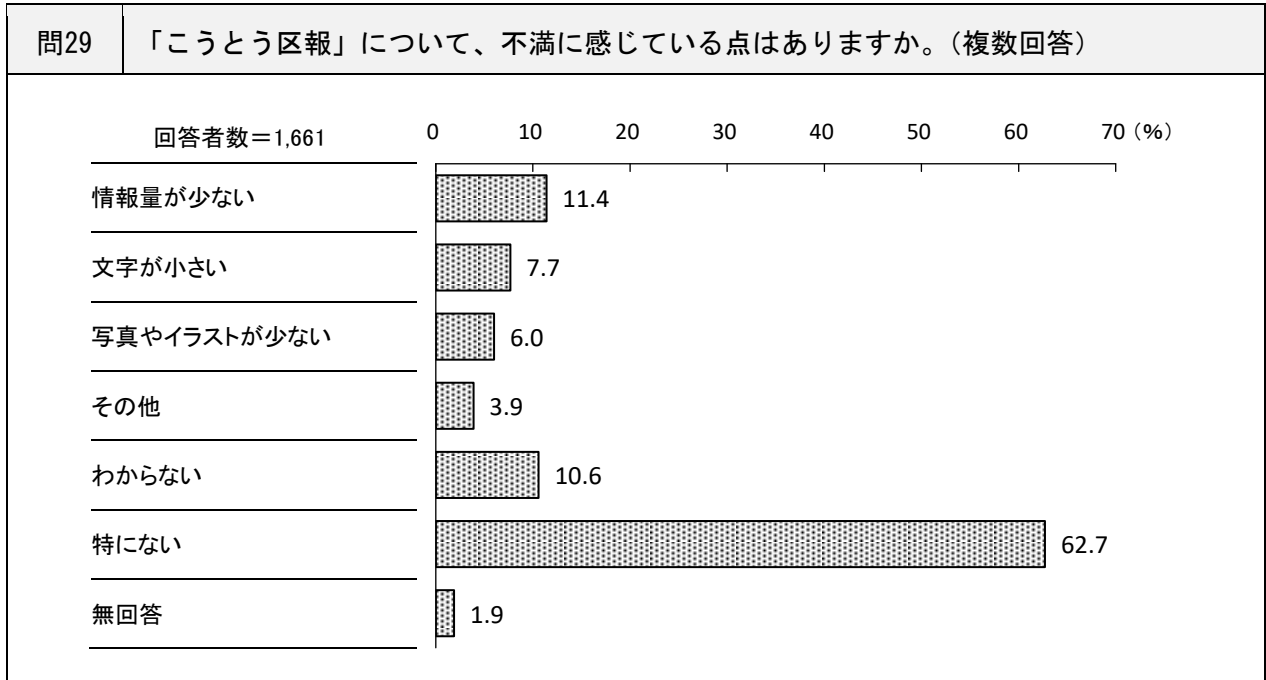
◇「読んでいます」は8割台半ば



○「こうとう区報」をどのくらい読んでいるか聞いたところ、「くわしく読んでいる」(17.7%)、「興味ある記事だけを読んでいる」(28.3%)、「ざっと目を通している」(40.3%)の3つを合わせた「読んでいます」(86.3%)が8割台半ばとなっている。

(2) 「こうとう区報」について、不満に感じている点

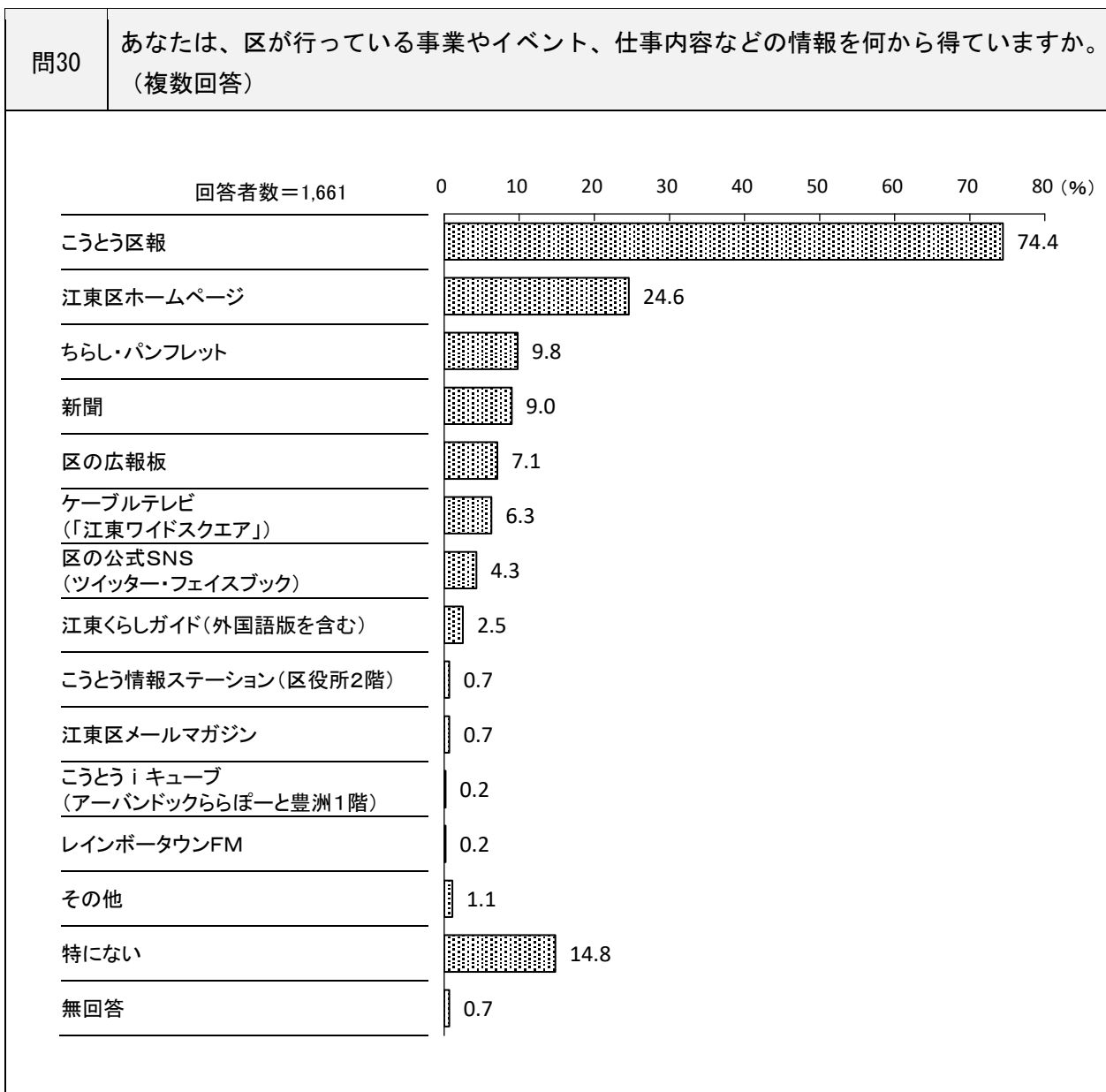
◇「情報量が少ない」が1割を超える



○「こうとう区報」について、不満に感じている点を聞いたところ、不満点としては、「情報量が少ない」(11.4%)が1割を超えて最も多く、次いで「文字が小さい」(7.7%)、「写真やイラストが少ない」(6.0%)と続いている。一方、「特にない」(62.7%)は6割を超えている。

(3) 区が行っている事業やイベント、仕事内容などの認知媒体

◇「こうとう区報」が7割台半ば

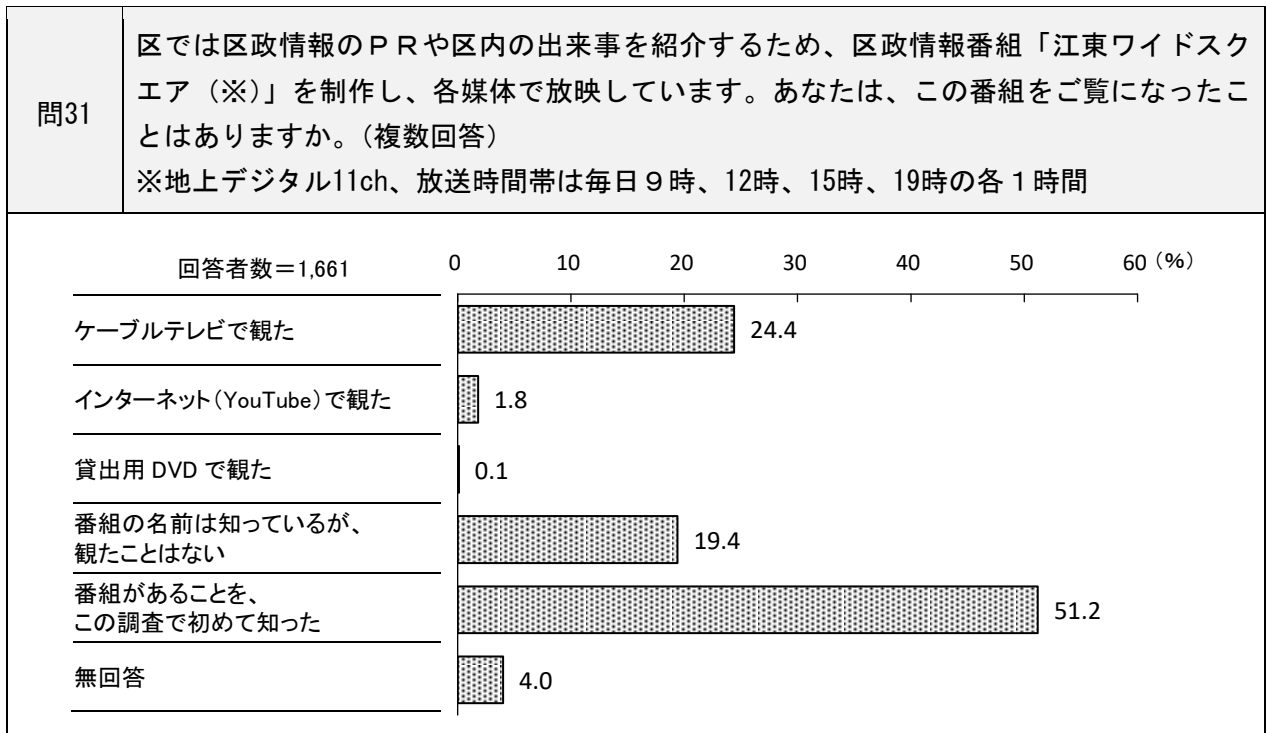


○区が行っている事業やイベント、仕事内容などの情報を何から得ているか聞いたところ、「こうとう区報」(74.4%)が7割台半ばで最も多く、次いで「江東区ホームページ」(24.6%)、「ちらし・パンフレット」(9.8%)、「新聞」(9.0%)と続いている。

第3章
調査結果の概要
13 広報

(4)「江東ワイドスクエア」の視聴状況

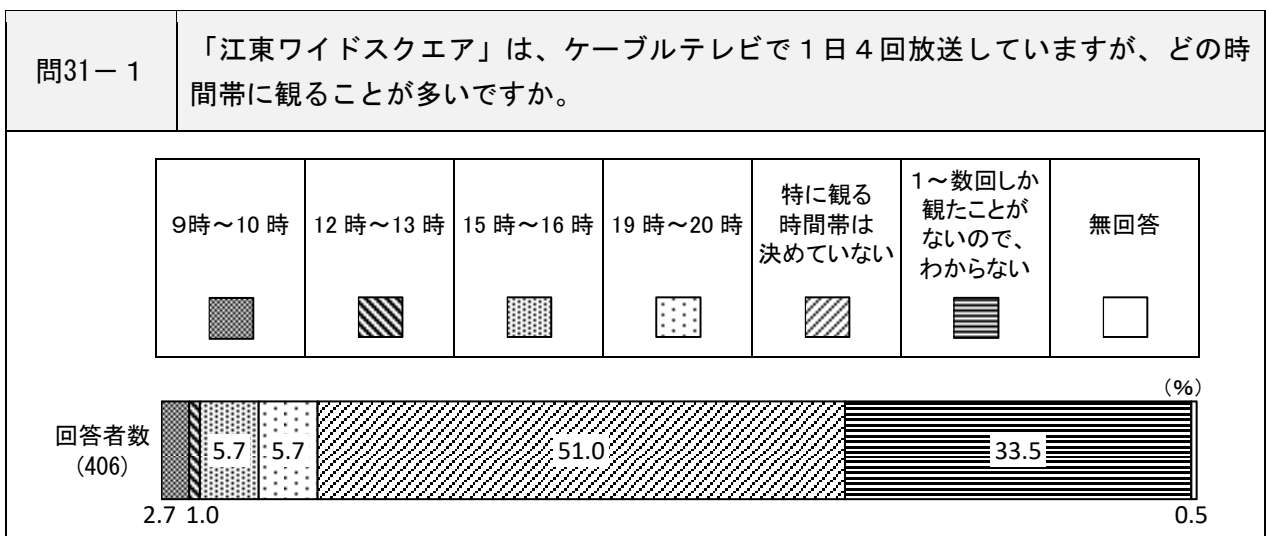
◇「ケーブルテレビで観た」が2割台半ば



○「江東ワイドスクエア」を見たことがあるか聞いたところ、見た中では、「ケーブルテレビで観た」(24.4%)が2割台半ばで最も多い。一方、「番組の名前は知っているが、観たことはない」(19.4%)がほぼ2割、「番組があることを、この調査で初めて知った」(51.2%)が5割を超えている。

(5)「江東ワイドスクエア」の視聴時間帯

◇「特に観る時間帯は決めていない」が5割を超える

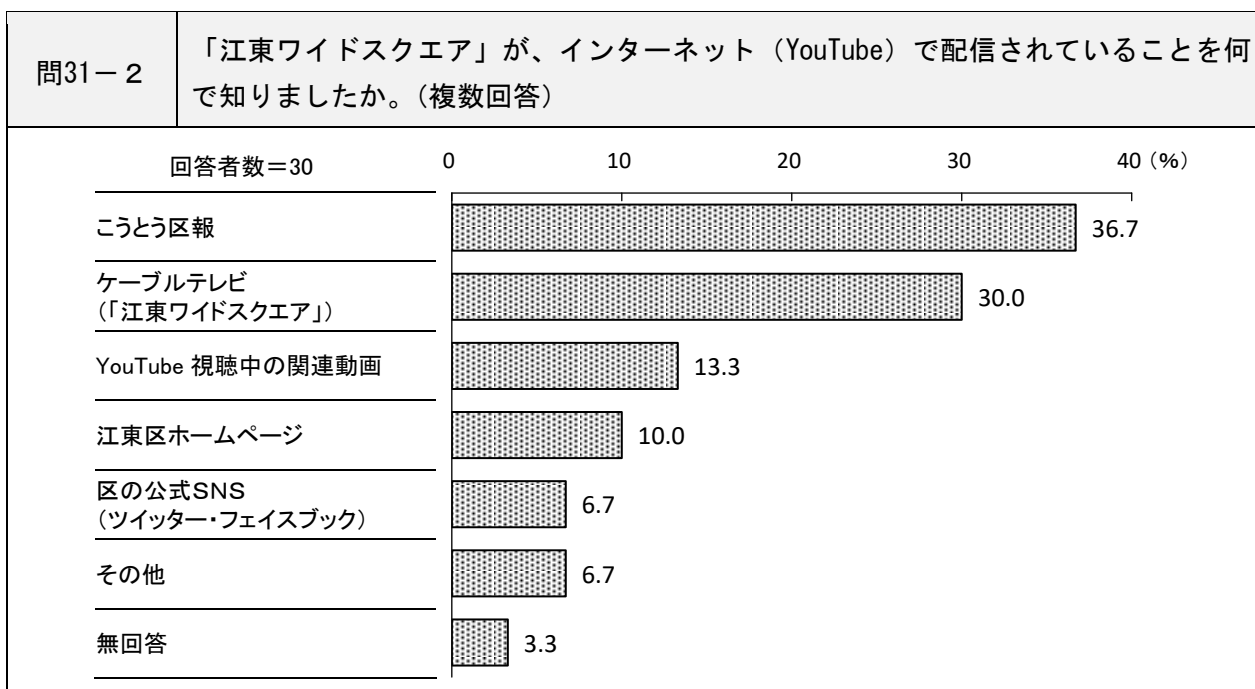


○「江東ワイドスクエア」をケーブルテレビで観たことがあると答えた方(406人)に、どの時間帯に観ることが多いかを聞いたところ、「特に観る時間帯は決めていない」(51.0%)が5割を超えて最も多く、次いで「1~数回しか観たことがないので、わからない」(33.5%)、「15時~16時」(5.7%)、「19時~20時」(5.7%)と続いている。

(6) 「江東ワイドスクエア」インターネット配信の認知媒体

新規

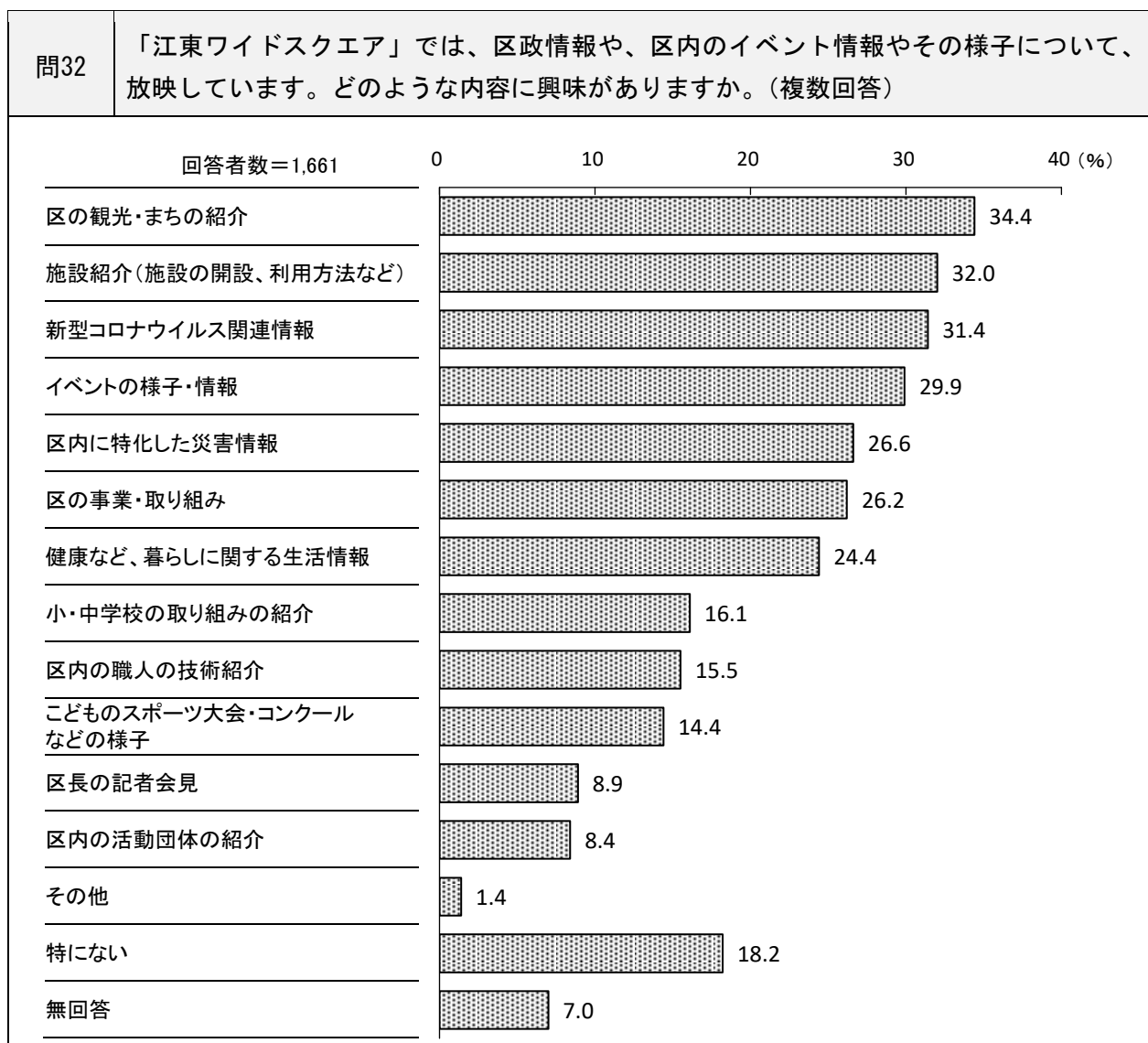
◇ 「こうとう区報」が4割近く



- 「江東ワイドスクエア」をインターネットで観たことがあると答えた方（30人）に、インターネットで配信されていることを何で知ったかを聞いたところ、「こうとう区報」（36.7%）が4割近くで最も多く、次いで「ケーブルテレビ（「江東ワイドスクエア」）」（30.0%）、「YouTube 視聴中の関連動画」（13.3%）と続いている。

(7)「江東ワイドスクエア」で興味のある内容

◇「区の観光・まちの紹介」が3割台半ば



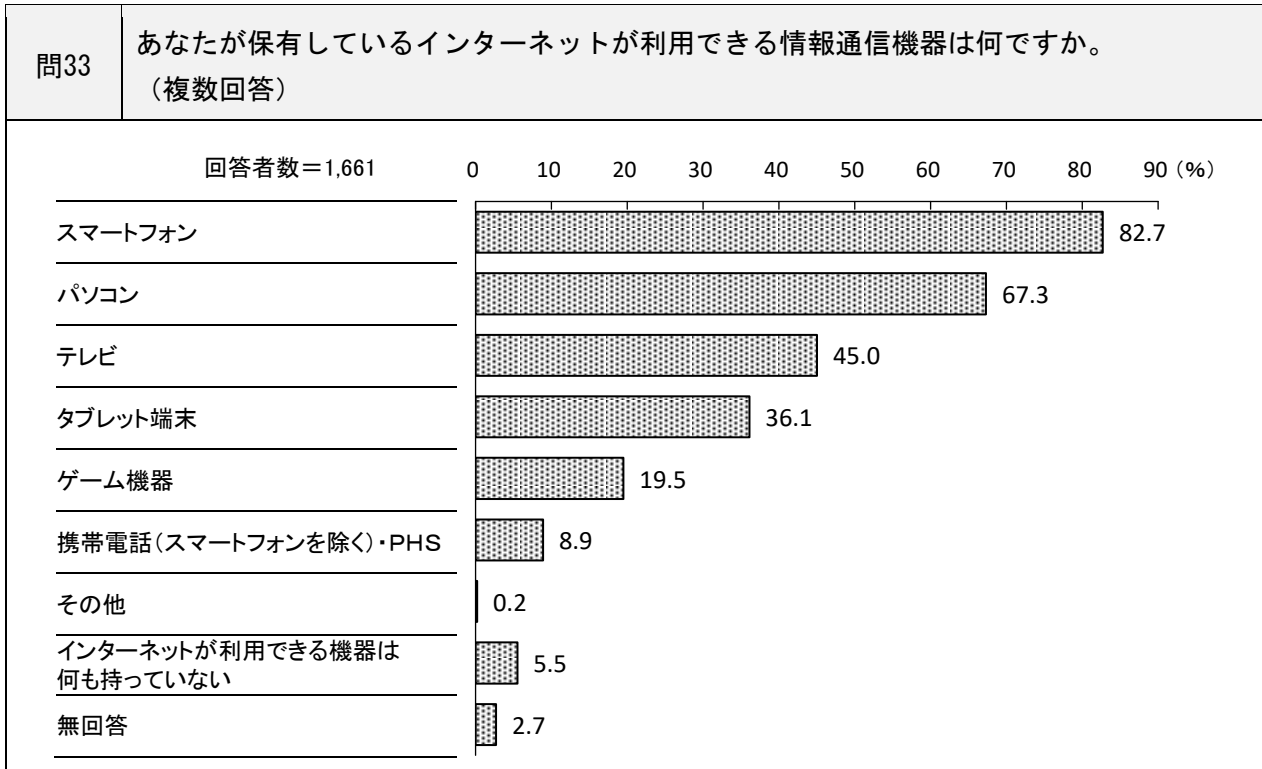
○「江東ワイドスクエア」で、どのような内容に興味があるかを聞いたところ、「区の観光・まちの紹介」(34.4%)が3割台半ばで最も多く、次いで「施設紹介(施設の開設、利用方法など)」(32.0%)、「新型コロナウイルス関連情報」(31.4%)と続いている。

14 ICT

(1) インターネットが利用できる情報通信機器の保有状況

新規

◇「スマートフォン」が8割を超える

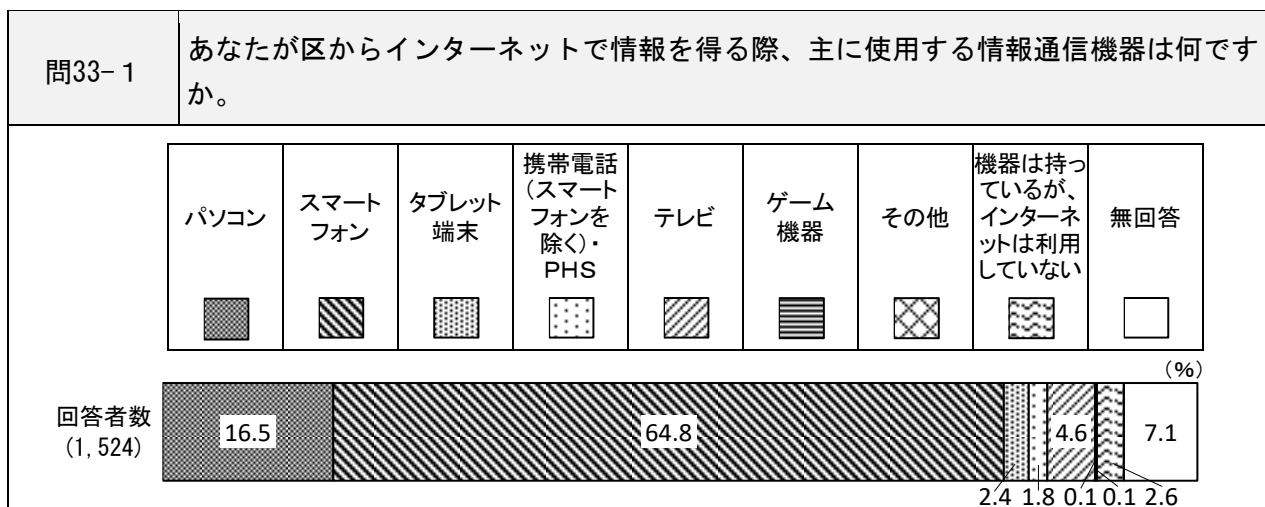


○インターネットが利用できる情報通信機器の保有状況を聞いたところ、「スマートフォン」(82.7%)が8割を超えて最も多く、次いで「パソコン」(67.3%)、「テレビ」(45.0%)と続いている。一方、「インターネットが利用できる機器は何も持っていない」(5.5%)は1割未満となっている。

(2) 主に使用する情報通信機器

新規

◇「スマートフォン」が6割台半ば



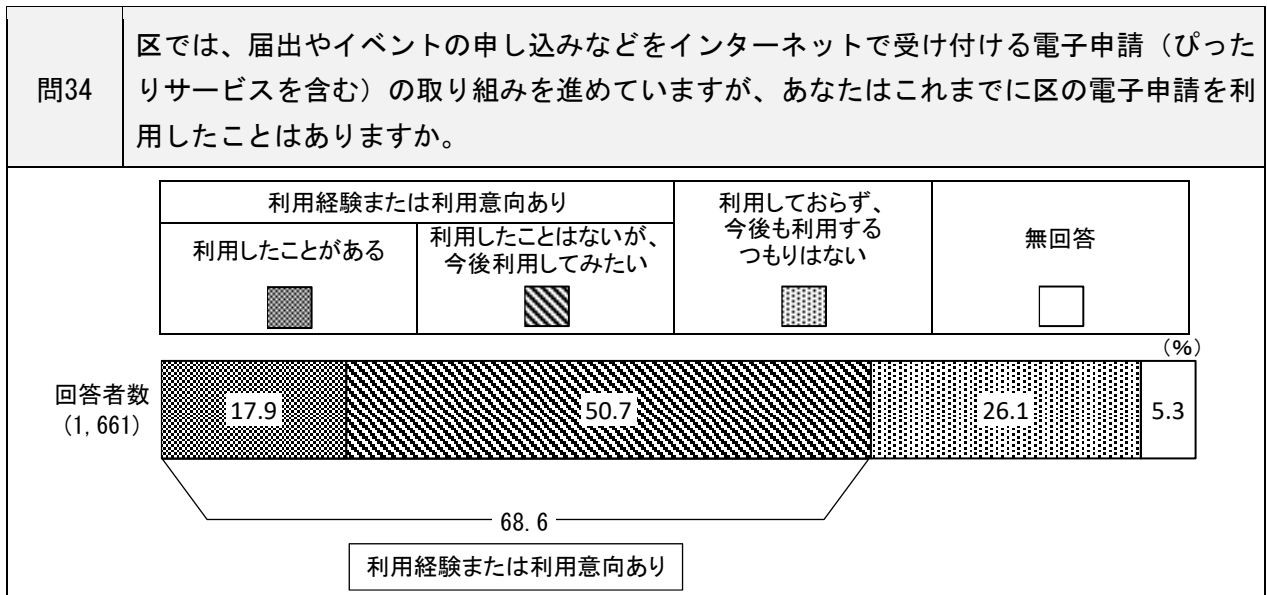
○インターネットが利用できる情報通信機器を持っている方(1,524人)に、インターネットで情報を得る際に主に使用する情報通信機器を聞いたところ、「スマートフォン」(64.8%)が6割台半ばで最も多く、次いで「パソコン」(16.5%)、「テレビ」(4.6%)と続いている。

第3章
調査結果の概要
14 ICT

(3) 区の電子申請の利用状況

新規

◇「利用したことはないが、今後利用してみたい」がほぼ5割

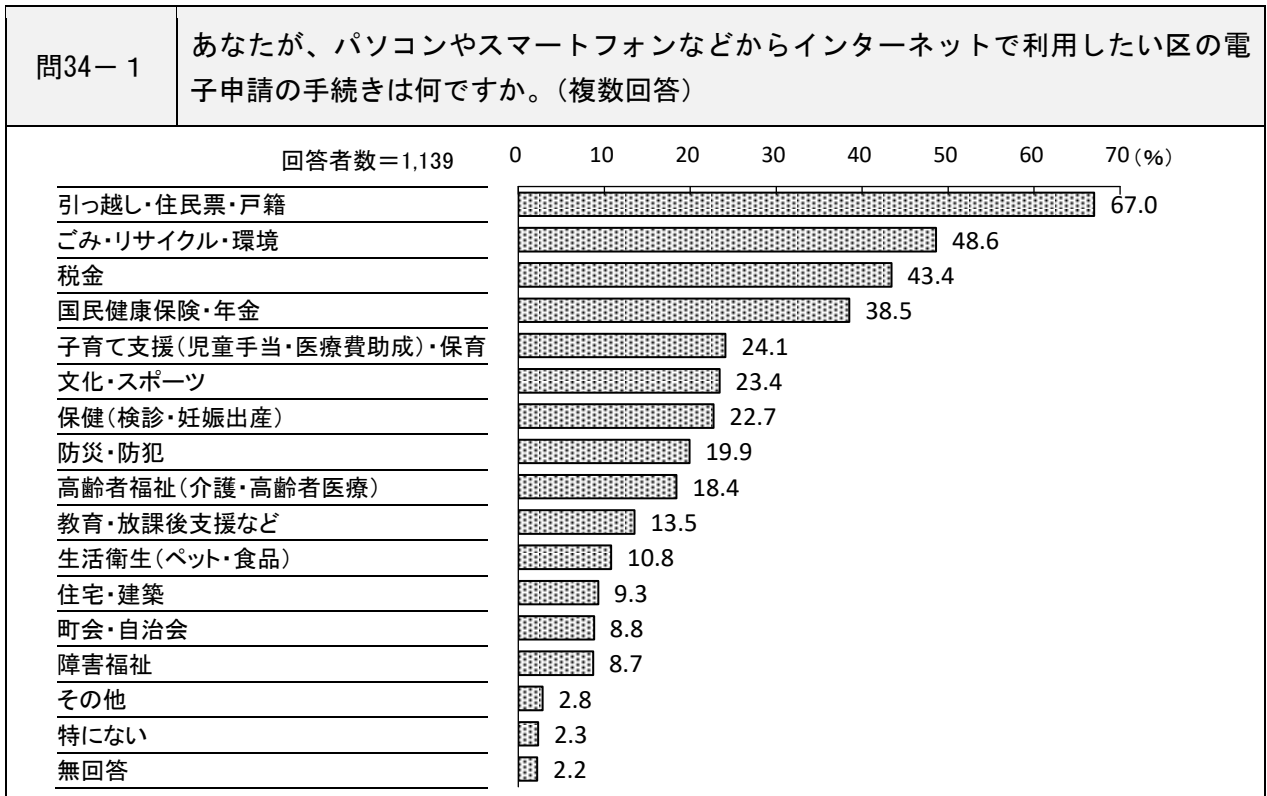


○区の電子申請を利用したことがあるかを聞いたところ、「利用したことはないが、今後利用してみたい」(50.7%)がほぼ5割で最も多く、「利用したことがある」(17.9%)を合わせた《利用経験または利用意向あり》(68.6%)が7割近くとなっている。一方、「利用しておらず、今後も利用するつもりはない」(26.1%)は2割台半ばとなっている。

(4) 利用したい区の電子申請の手続き

新規

◇「引っ越し・住民票・戸籍」が7割近く

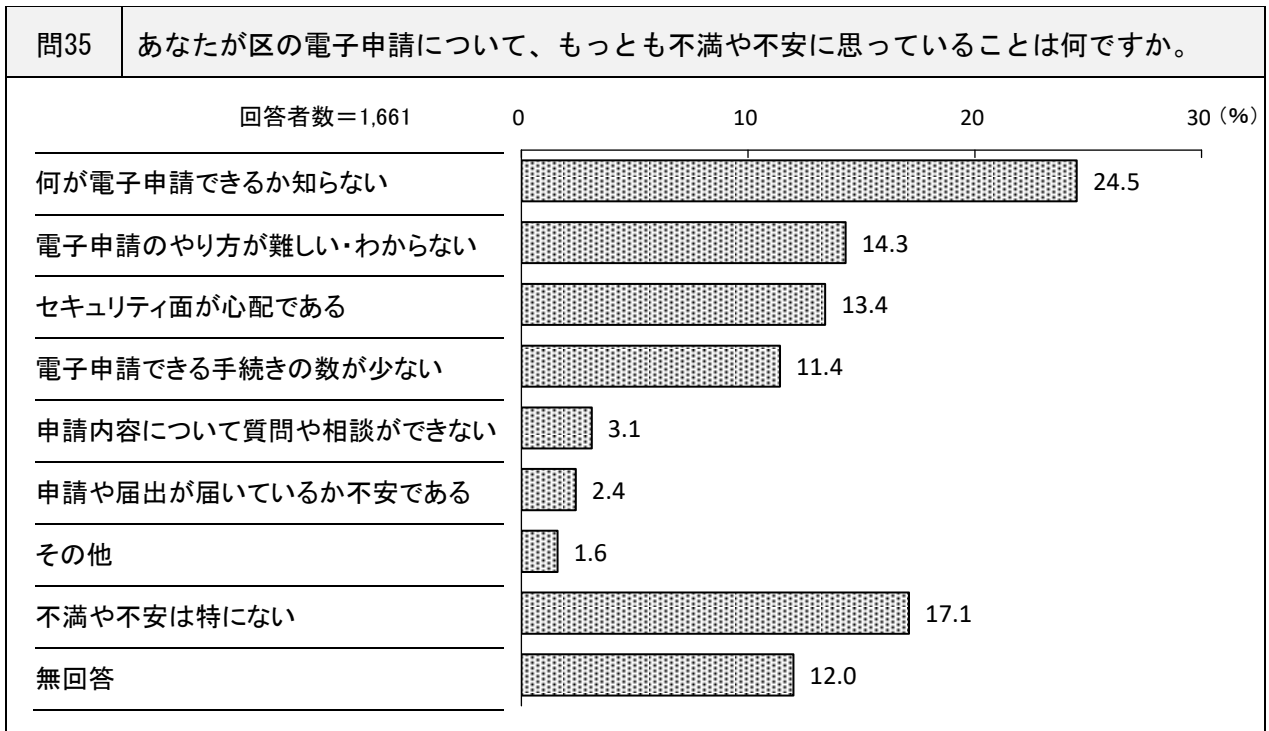


○区の電子申請を利用したことがある、または、利用したことはないが今後利用してみたいと答えた方(1,139人)に、利用したい区の電子申請の手続きを聞いたところ、「引っ越し・住民票・戸籍」(67.0%)が7割近くで最も多く、次いで「ごみ・リサイクル・環境」(48.6%)、「税金」(43.4%)と続いている。

(5) 区の電子申請について、不満や不安に思っていること

新規

◇「何が電子申請できるか知らない」が2割台半ば

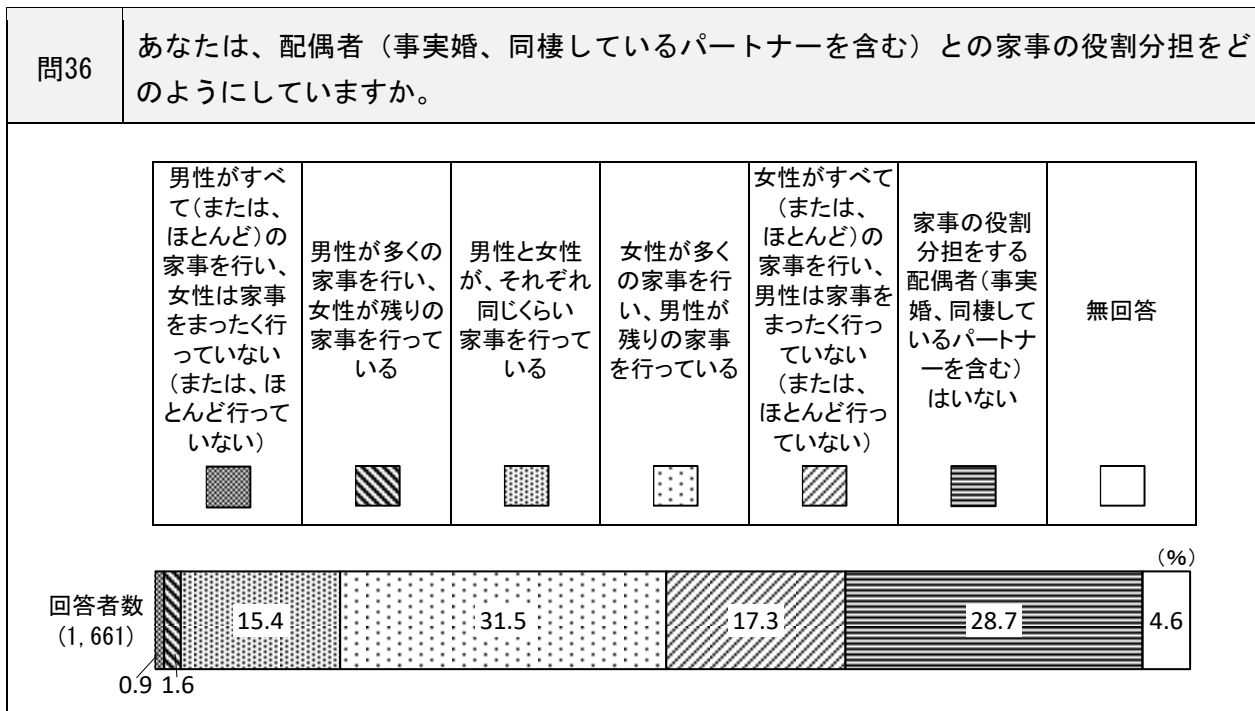


○区の電子申請について不満や不安に思っていることを聞いたところ、「何が電子申請できるか知らない」(24.5%)が2割台半ばで最も多く、次いで「電子申請のやり方が難しい・わからない」(14.3%)、「セキュリティ面が心配である」(13.4%)と続いている。一方、「不満や不安は特にない」(17.1%)は2割近くとなっている。

15 男女共同参画

(1) 配偶者との家事の役割分担

◇「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」が3割を超える



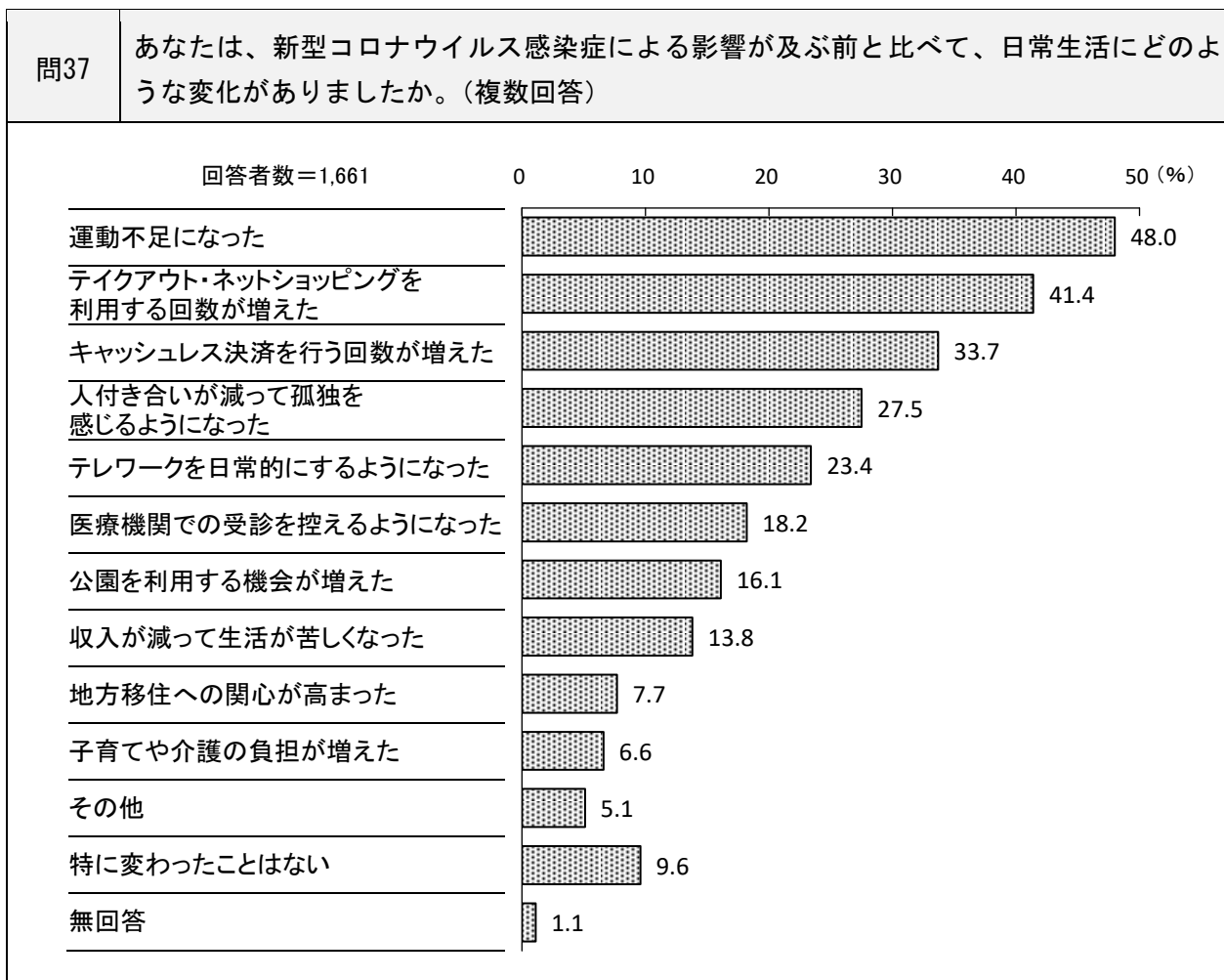
○配偶者との家事の役割分担について聞いたところ、「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」(31.5%)が3割を超えて最も多く、次いで「女性がすべて（または、ほとんど）の家事を行い、男性は家事をまったく行っていない（または、ほとんど行っていない）」(17.3%)、「男性と女性が、それぞれ同じくらい家事を行っている」(15.4%)と続いている。一方、「家事の役割分担をする配偶者（事実婚、同棲しているパートナーを含む）はいない」(28.7%)は3割近くとなっている。

16 コロナ禍による生活の変化

(1) 新型コロナウイルス感染症による日常生活の変化

新規

◇「運動不足になった」が5割近く

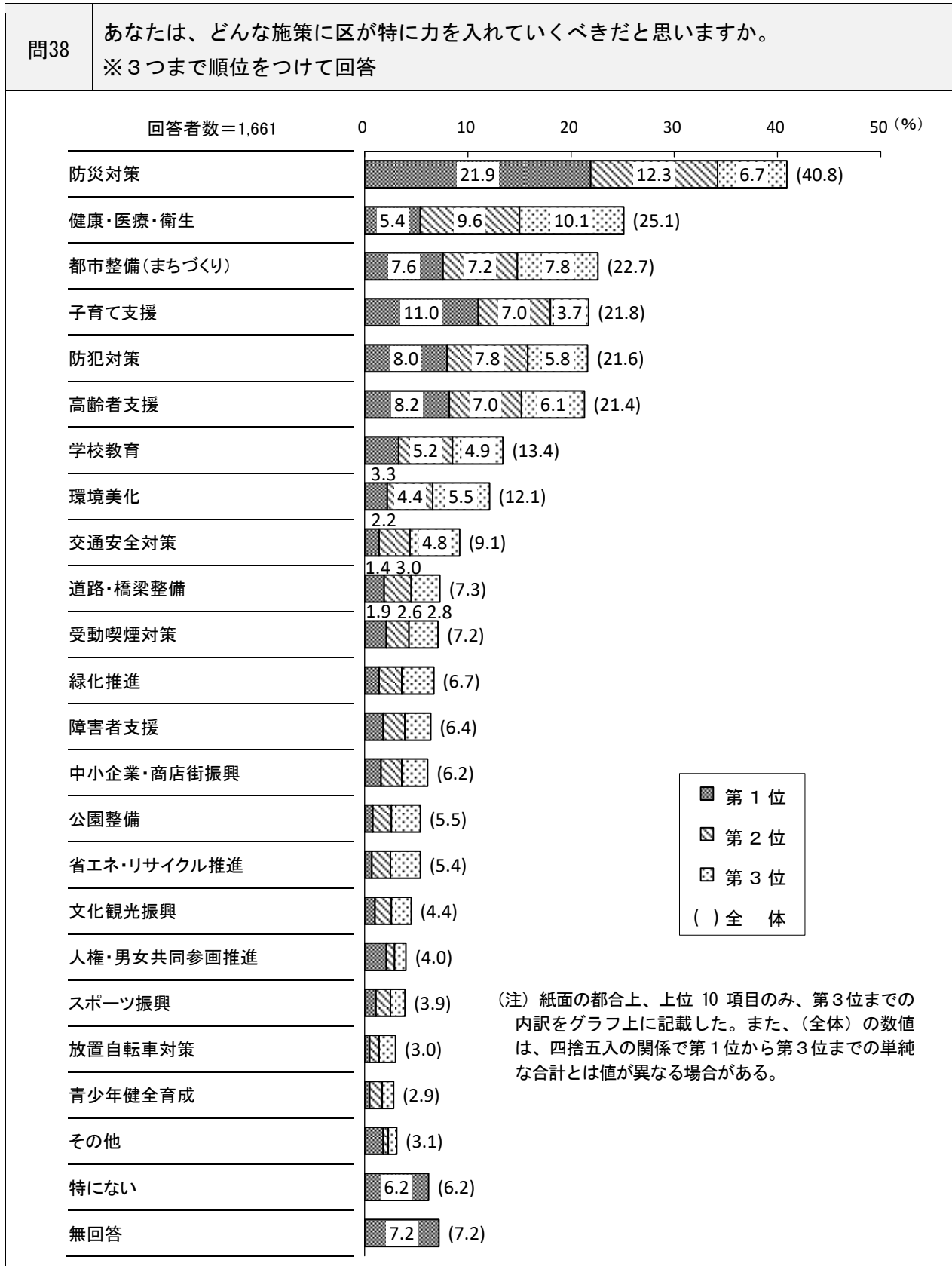


○新型コロナウイルス感染症による影響で日常生活にどのような変化があったかを聞いたところ、「運動不足になった」(48.0%)が5割近くで最も多く、次いで「テイクアウト・ネットショッピングを利用する回数が増えた」(41.4%)、「キャッシュレス決済を行う回数が増えた」(33.7%)と続いている。

17 施策への要望

(1) 力を入れてほしい施策

◇「防災対策」がほぼ4割



○区に対して特に力を入れてほしいものを、第1位から第3位までを累計した《全体》でみると、「防災対策」(40.8%)がほぼ4割で最も多く、次いで「健康・医療・衛生」(25.1%)、「都市整備(まちづくり)」(22.7%)と続いている。